

湯日川水系河川整備計画

令和6年4月

静岡県

目次

第 1	流域及び河川の概要	1
1	流域の概要	1
(1)	流域の地形・地質	2
(2)	流域の気候	3
(3)	土地利用	5
(4)	産業・観光	7
(5)	主要交通	12
(6)	流域の歴史・文化	14
(7)	治水事業の沿革	16
2	河川の概要	19
(1)	上流部（起点～寺沢合流点）	19
(2)	中流部	20
(3)	下流部・河口部（感潮区間，岩留橋～河口）	21
第 2	流域の現状と課題	22
1	治水に関する現状と課題	22
(1)	洪水対策	22
(2)	津波対策	22
2	河川の水利用に関する現状と課題	23
3	河川環境に関する現状と課題	24
(1)	水質	24
(2)	動植物の生息・生育状況	25
4	河川と地域の関わりに関する現状と課題	29
第 3	河川整備計画の目標に関する事項	30
1	河川整備の基本理念と基本方針	30
2	計画対象区間	31
3	計画対象期間	31
4	洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する目標	31
5	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標	32
6	河川環境の整備と保全に関する目標	32
7	河川と地域との関わりに関する目標	32
第 4	河川整備の実施に関する事項	33
1	河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要	33

(1)	河川工事の目的.....	33
(2)	河川工事の施行場所.....	33
(3)	主要工事の概要.....	34
2	河川の維持の目的、種類及び施行の場所.....	36
(1)	河川の維持の目的.....	36
(2)	河川の維持の種類.....	36
3	その他の河川整備を総合的に行うために必要な事項.....	38
(1)	総合的な被害軽減対策.....	38
(2)	流域との連携.....	39
(3)	流域における取組への支援等.....	39

第1 流域及び河川の概要

1 流域の概要

湯日川は、流域面積約 25.8km²、流路延長約 15.9km の二級河川である。その源を静岡県島田市(旧 榛原郡金谷町)の牧之原台地に発し、準用河川湯日谷川を経て湯日川となり、途中、長池川、沢川、出水川、清水川などの準用河川と合流しながら、台地の合間の谷底平野を東向きに流れ、大井川の氾濫平野に入り南東に向きを変え、榛原郡吉田町の市街地を流下し、吉田漁港を介して駿河湾へ注いでいる。

流域の地形は、上流部の大部分が台地であり、中流部から下流部にかけて大井川の扇状地である低平地が広がっている。

湯日川流域は、島田市と吉田町に位置しており、下流部を国道 150 号、中流部を吉田インターチェンジを伴う東名高速道路、上流部を東海道新幹線がそれぞれ横切るなど、志太榛原地域の主要幹線が集中している。

下流域では、近年まで養鰻池が数多く存在していたが、現在はそのほとんどが埋め立てられ、市街化している。河口に位置する吉田漁港は、県内有数のシラスの漁獲高を誇っている。

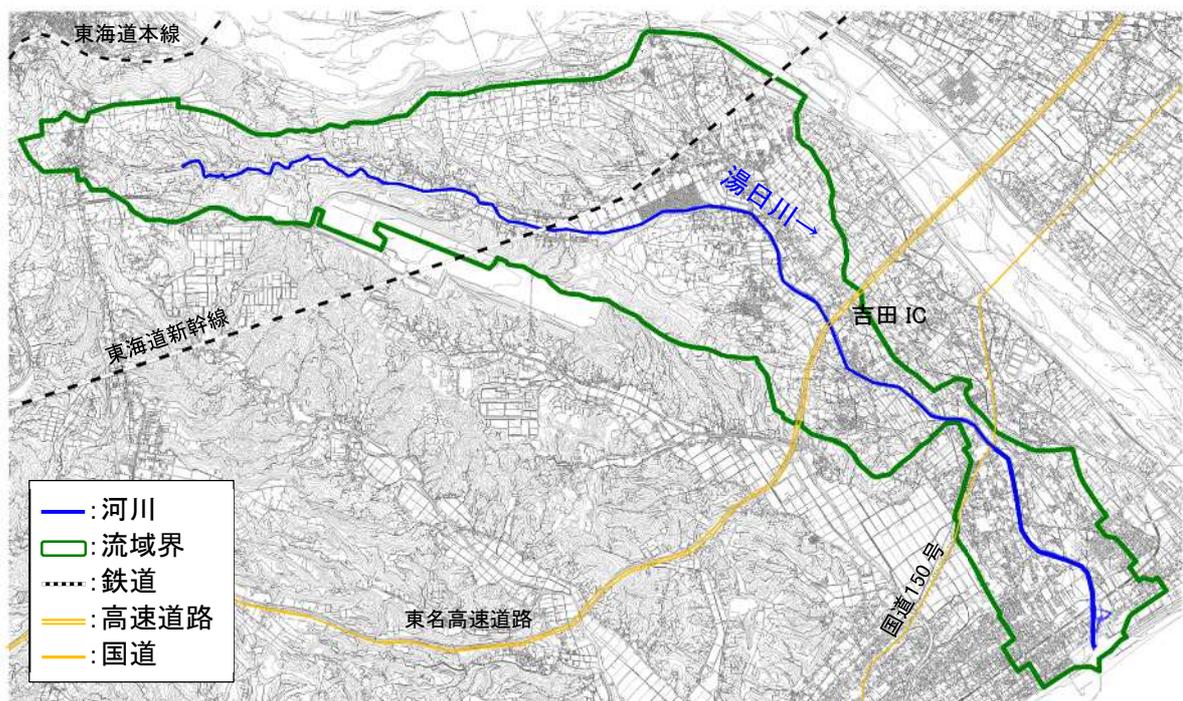


図 1-1 湯日川流域位置図

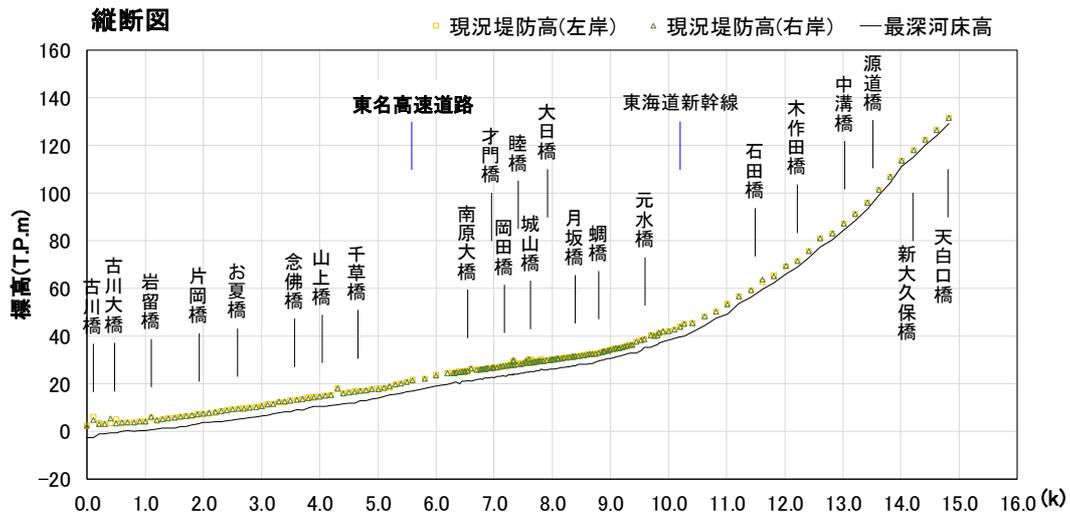


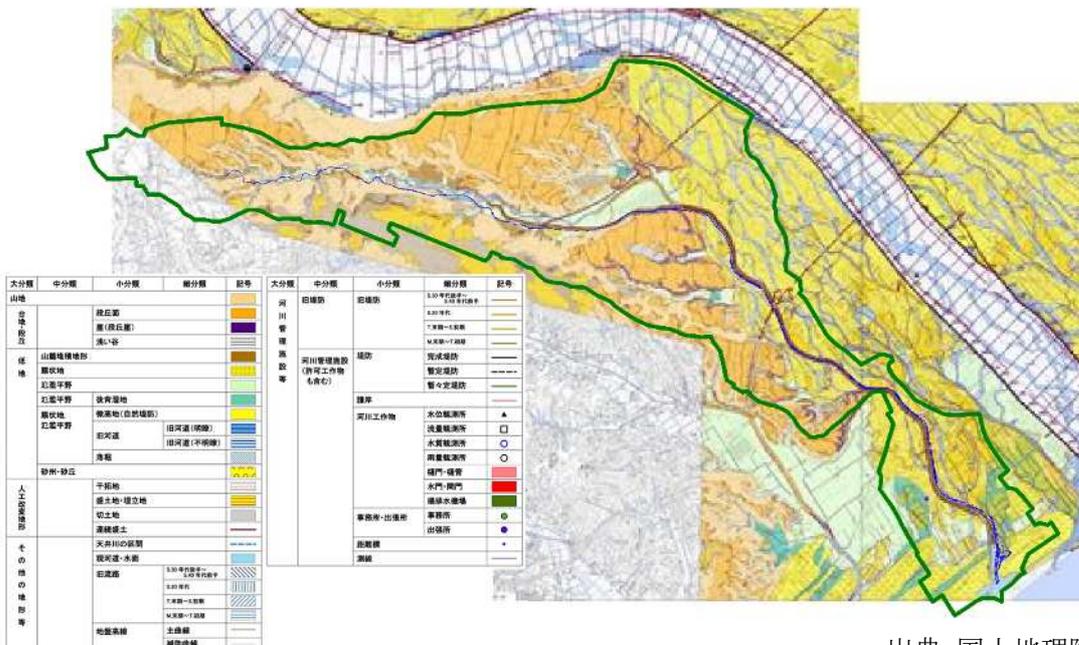
図 1-2 湯日川の河床縦断面図

(1) 流域の地形・地質

流域内には、富士山静岡空港周辺から吉田町の能満寺山公園・展望台小山城付近にかけて、「坂部原の活褶曲」と呼ばれる特異な地形が形成されている。また、この先端部にあたる吉田町神戸付近は、北東-南西に軸を持った「下撓曲(下方にたわんでいること)」と呼ばれる地形となっている。

湯日川左岸は大井川の旧河道が広がっている。右岸は段丘や山地であり、湯日川はこの段丘や山地の裾野を流れている。

流域の地質は、上流部が海成層泥岩、泥岩砂岩互層、海成層、砂岩泥岩互層、中流部が段丘堆積物、扇状地・崖錐堆積物、下流部が海岸・砂丘堆積物によりそれぞれ形成されている。



出典: 国土地理院

図 1-3 湯日川流域の治水地形分類図

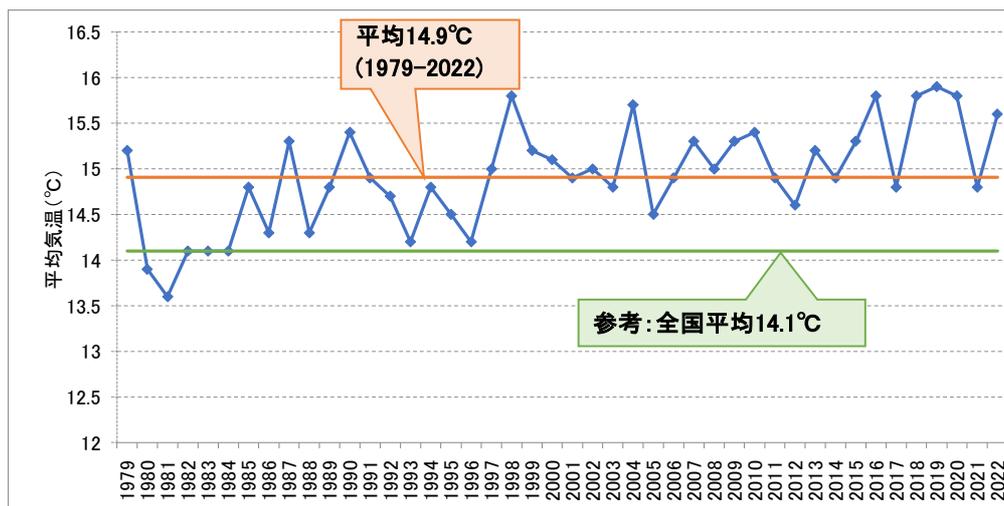


出典：土地分類基本調査 地形分類図 1/5 万、1981 年

図 1-4 湯日川流域の地形分類図

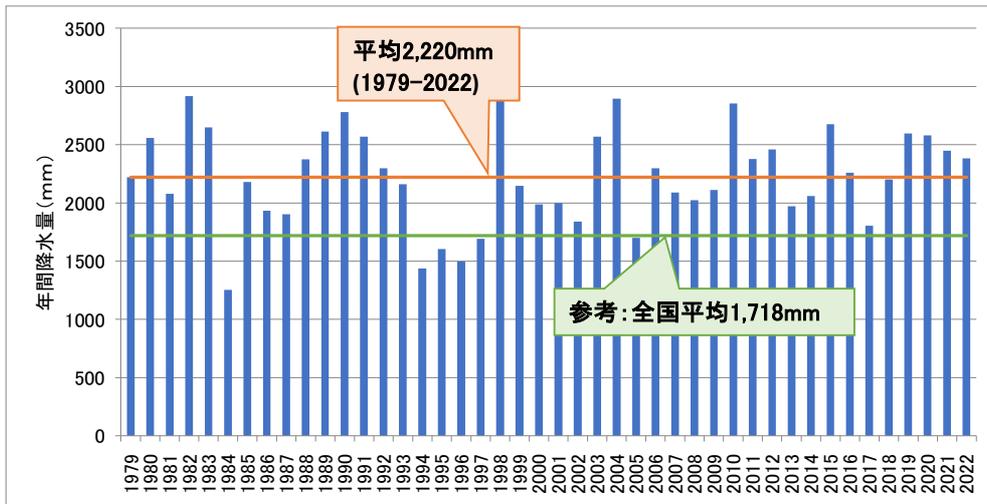
(2) 流域の気候

湯日川流域の気候は、静岡県の大部分の地域と同様に極めて温暖で、夏季は高温多湿、冬季は温暖少雨の表日本気候(太平洋型気候区)に属している。近傍の観測点における年平均気温(1979-2022)は、菊川牧之原で 14.9℃と、全国平均 14.1℃と比較して高く、温暖な気候である。また、近傍の観測点における年平均降水量(1979-2022)は、菊川牧之原で 2,220mm と、全国平均 1,718mm と比較して多い。



出典：気象庁気象統計情報

図 1-5 年間平均気温の推移(菊川牧之原)



出典：気象庁気象統計情報

図 1-6 年間平均降水量の推移（菊川牧之原）

〈平均値の出典〉

全国の平均気温：全国の気象台のうち 82 地点（ただし、富士山、昭和(南極)を除く)の 1981～2010 年の平均値

全国の平均降水量：1986～2018 年の平均値、国土交通省水管理・国土保全局「平成 30 年版 日本の水資源の状況」



出典：気象庁ホームページ

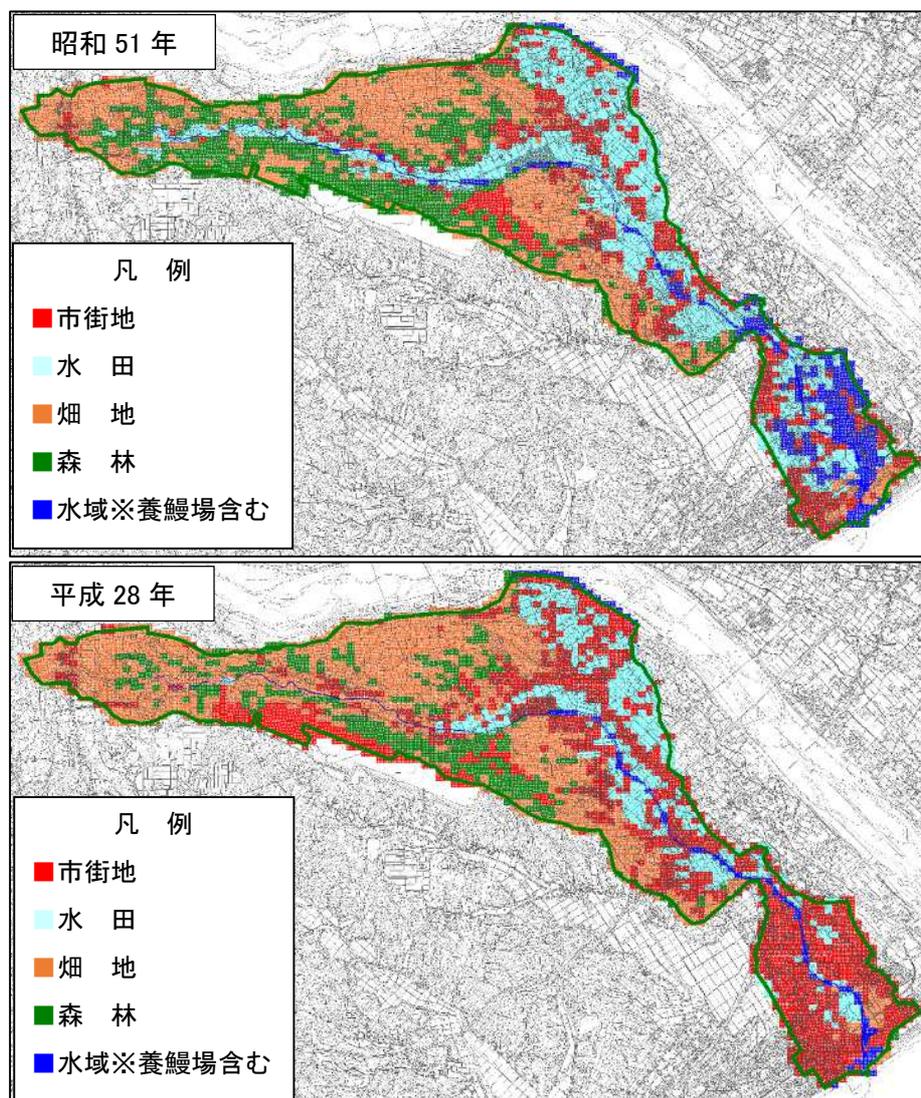
図 1-7 気象観測所位置図

(3) 土地利用

湯日川流域は、下流域や幹線道路沿いが主に市街地として、中上流部の大井川の扇状地や丘陵地などが水田や畑地として利用されている。

流域の土地利用割合は、市街地が 37%、水田が 14%、畑地等が 35%となっている。近年、丘陵地を中心に広がる畑地等に変化は少ないものの、富士山静岡空港(平成 21 年6月開港)や幹線道路周辺、下流域に多くあった養鰻池周辺で市街化が進んでいる。

今後、交通網の整備等に伴って、更なる市街化の進展が予想される。



出典: 国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ(国土交通省国土政策局情報課)

図 1-8 土地利用区分の変化

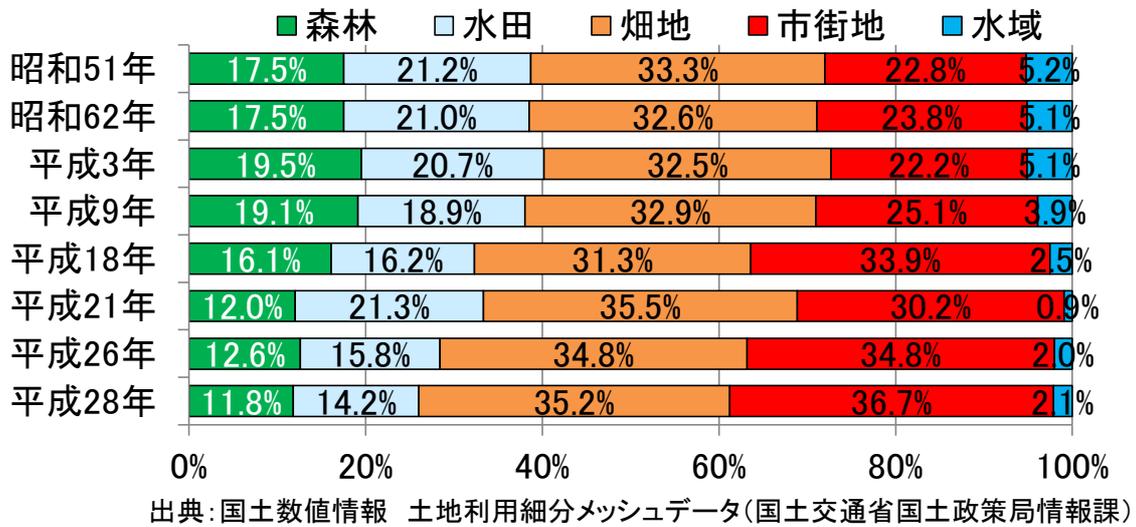
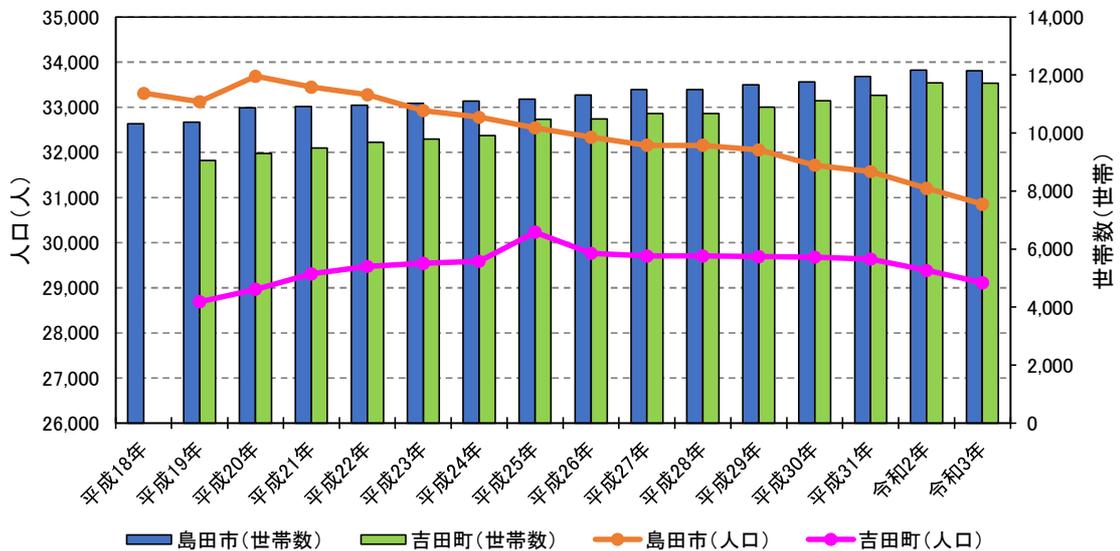


図 1-9 土地利用区分の面積割合の変遷

流域内に位置する島田市(初倉地区、金谷地区)の人口は減少傾向にあり、世帯数は微増傾向にある。

また、吉田町の人口は横ばい傾向、世帯数は増加傾向の状況にある。世帯数が増加しているのは、企業の工場群が立地したことなどが要因と考えられる。



出典：島田市ホームページ, 吉田町ホームページ

図 1-10 人口の推移

(4) 産業・観光

島田市の就業者数は、第3次産業が増加傾向にあり、第1次産業は減少、第2次産業は横ばい傾向である。また、平成27年国勢調査によると、製造業に就業する人が就労人口の29%と最も多い。次いで卸売業・小売業、医療福祉、建設業、農業林業が多い。

吉田町の就業者は、第3次産業が増加傾向にあり、第1次産業は減少、第2次産業は横ばい傾向にある。平成27年国勢調査によると、製造業に就業する人が就労人口の40%と最も多い。次いで卸売業・小売業、建設業、運輸郵便業が多く、農業・漁業等の第1次産業に従事する人は全体の4%程度と少ない。

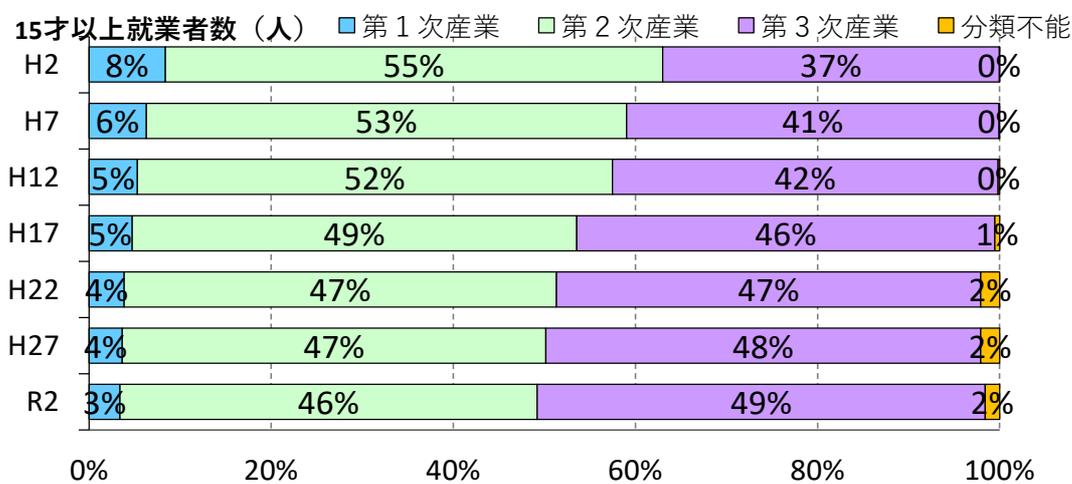


図 1-11 島田市の産業大分類別就業人口割合の変遷

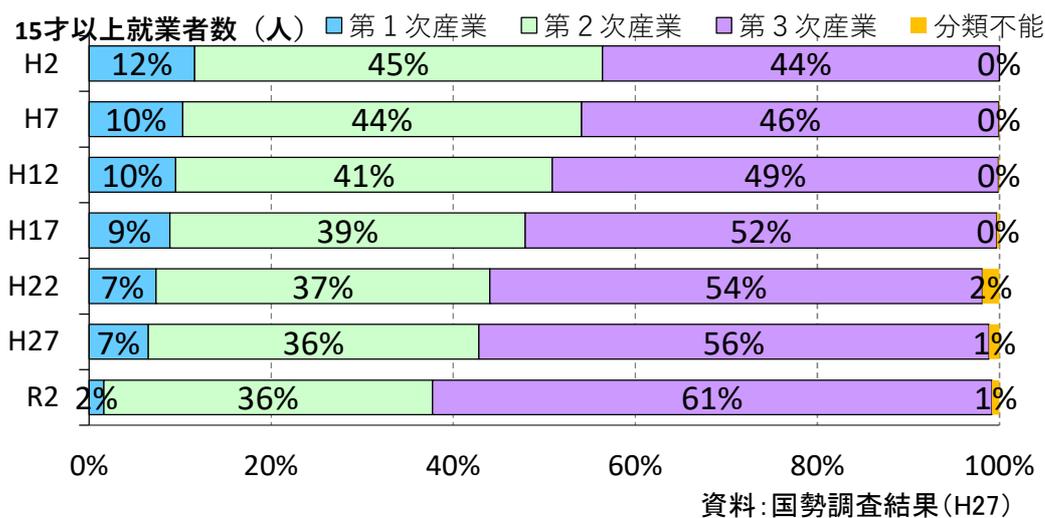
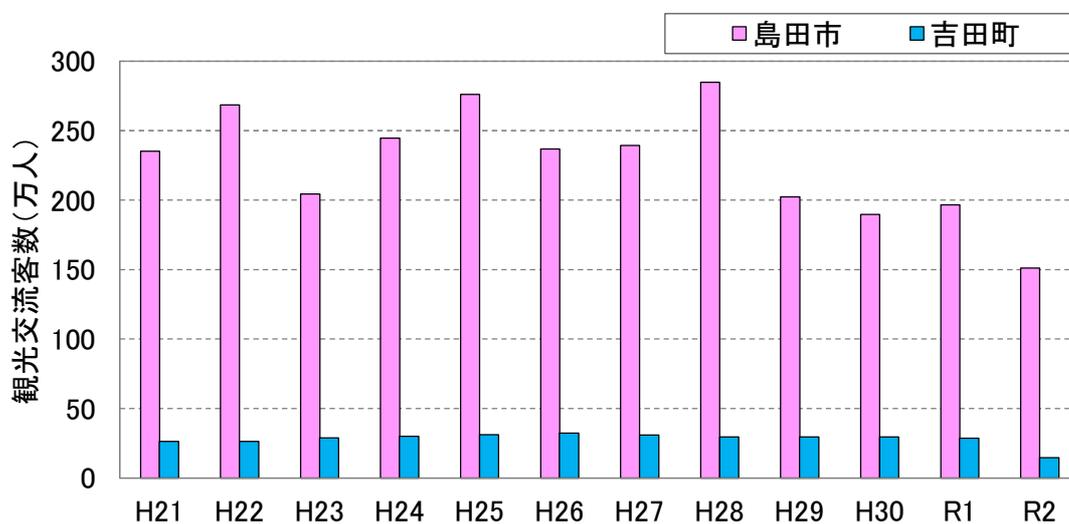


図 1-12 吉田町の産業大分類別就業人口割合の変遷

島田市を訪れる観光交流客数は、増減はあるものの、近年は 200 万人前後で推移しており、3 年に1回開催される島田大祭には、多くの観光客が来訪する。流域に隣接する牧之原台地には平成 30 年3月にふじのくに茶の都ミュージアム(島田市内)が開館した。また、地域のイベントとしておせん女踊りが毎年開催されている。

吉田町を訪れる観光客数は、近年は約 30 万人となっており、宿泊客数・観光レクリエーション客数ともに横ばいである。吉田町内では、毎年、港まつり花火大会や小山城まつり、凧あげまつりやチューリップまつり等が開催され、観光名所としては、県営吉田公園や展望台小山城等がある。

上流域では、平成 21 年6月に富士山静岡空港が開港し、静岡県空の玄関口としての役割も担うようになった。



出典: 静岡県ホームページ

図 1-13 観光交流客数の推移

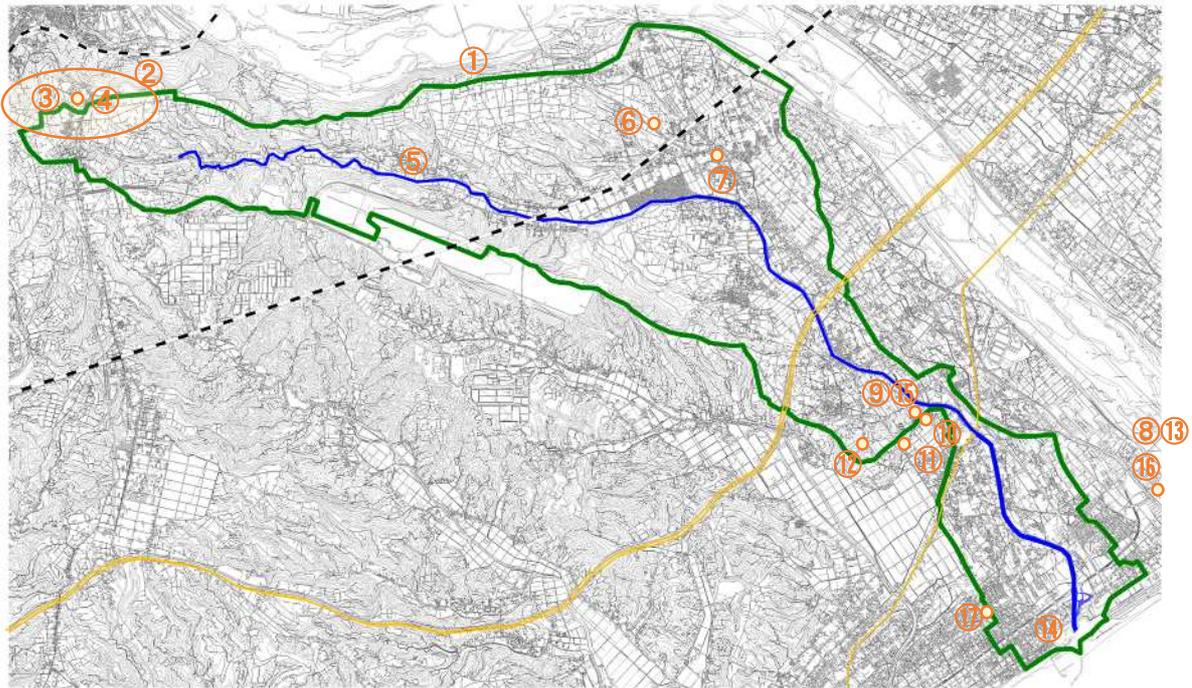


図 1-14 観光名所・イベント

表 1.1 流域内及び近隣の観光名所・イベント

市町	種別	名称
島田市	観光名所	①蓬萊橋
		②牧之原大茶園
		③ふじのくに茶の都ミュージアム
		④牧之原公園
		⑤Glamping&Port 結
	イベント	⑥おせん女踊り
		⑦初倉まつり
吉田町	観光名所	⑧県営吉田公園
		⑨展望台小山城
		⑩能満寺
		⑪林泉寺の長藤
		⑫萬年のサツキ
		イベント
	⑭港まつり花火大会	
	⑮小山城まつり	
	⑯チューリップまつり	



蓬莱橋



牧之原大茶園



ふじのくに茶の都ミュージアム

図 1-15 流域内及び近隣の観光名所(島田市)



小山城まつり



住吉神社夏季祭典



凧あげまつり



港まつり花火大会

図 1-16 流域内及び近隣のイベント (吉田町)



展望台小山城



能満寺

図 1-17 流域内の観光名所(吉田町)

(5) 主要交通

平成 21 年6月に富士山静岡空港が開港し、空の玄関口となっている。

主要な道路として、東名高速自動車道が流域の中央を横断し、吉田インターチェンジが位置している。また、下流域を国道 150 号及び国道 150 号バイパスが北東から南西に向けて横断している。

吉田インターチェンジから富士山静岡空港へは、県道の島田吉田線、住吉金谷線、静岡空港線を経由するルートが構築され、沿線では今後も更なる市街化が予想される。これらのルートは、榛南地域の生活に密接に関連した重要路線としてだけでなく、産業・経済、物流、観光等の様々な交流を促す基軸であり、交通ネットワークとしての利便性の向上とともに、地域の発展と流域の更なる市街化が予想される。

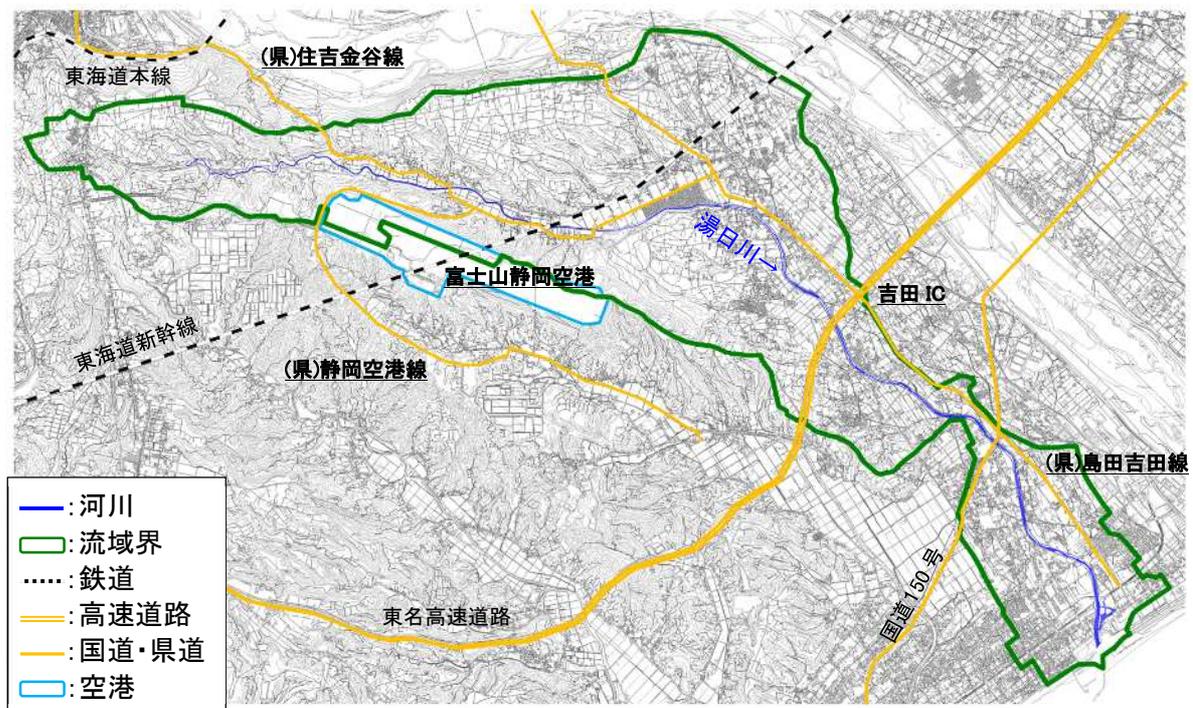


図 1-18 流域の交通網



図 1-19 富士山静岡空港（全景）



図 1-20 富士山静岡空港（ターミナルビル）

(6) 流域の歴史・文化

① 流域の歴史

湯日川流域への入植は縄文時代に遡ると言われている。大井川の氾濫に悩まされながらも、飛鳥時代には条里制による農地整備や江戸時代には新田開発などを行う一方で、舟運や漁業も営まれてきた。日本書紀には、島田市船木付近にて巨木で船を造り、近畿方面に送られたという記述が見られ、現在の湯日川を利用したと考えられている。律令時代には島田市初倉・色尾付近に国司参内のための街道や駅家が設けられたと考えられている。鎌倉時代には能満寺が建立され、戦国時代に入ると遠江をおさえる第一歩として武田氏がこの地に砦を築き、城郭を備えたのち「小山城」と名付けられた。その際、湯日川には水堀の役割があった。

② 流域の文化財

湯日川流域を含む周辺には、鎌倉時代に亀山天皇の許可を得て建立された能満寺の天然記念物である能満寺のソテツや小山城址など史跡・古墳が7箇所存在する。



図 1-21 能満寺のソテツ



図 1-22 小山城址

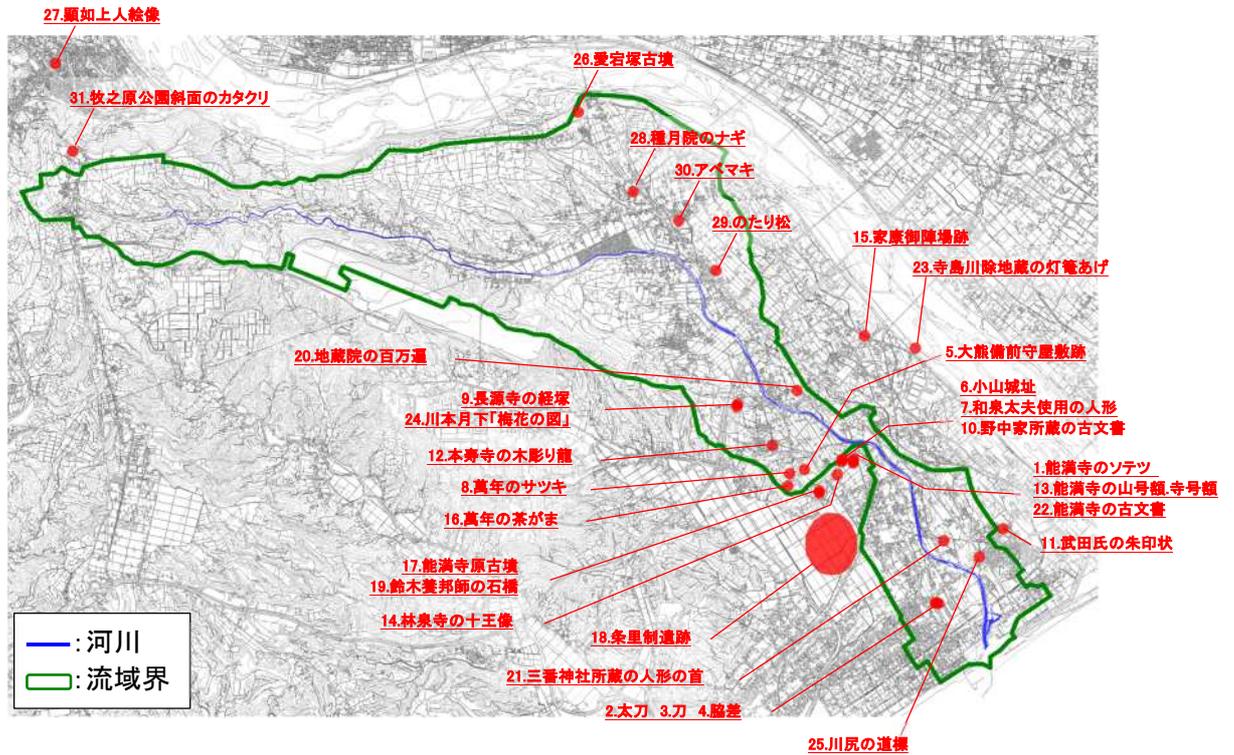


図 1-23 文化財等一覧

表 1.2 文化財等一覧

指定	No.	種別	名称	指定	No.	種別	名称
国	1	天然記念物	能満寺のソテツ	吉田町	17	史跡	能満寺原古墳
県	2	工芸品	太刀		18	史跡	条里制遺跡
	3	工芸品	刀		19	史跡	鈴木養邦師の石橋
	4	工芸品	脇差		20	行事	地蔵院の百万遍
	5	史跡	大熊備前守屋敷跡		21	工芸品	三番神社所蔵の人形の首
吉田町	6	史跡	小山城址	22	古文書	能満寺の古文書	
	7	工芸品	和泉太夫使用の人形 (その墓の関係文書)	23	行事	寺島川除地蔵の 灯籠あげ	
	8	天然記念物	萬年のサツキ	24	絵画	川本月下「梅花の図」	
	9	古文書	長源寺の経塚	25	建造物	川尻の道標	
	10	古文書	野中家所蔵の古文書	島田市	26	史跡	愛宕塚古墳
	11	古文書	武田氏の朱印状		27	絵画	顕如上人絵像
	12	彫刻品	本寿寺の木彫り龍		28	天然記念物	種月院のナギ
	13	書跡	能満寺の山号額 ・寺号額		29	天然記念物	のたり松
	14	工芸品	林泉寺の十王像		30	天然記念物	アベマキ
	15	史跡	家康御陣場跡		31	天然記念物	牧之原公園斜面の カタクリ
		16	工芸品	萬年の茶がま			

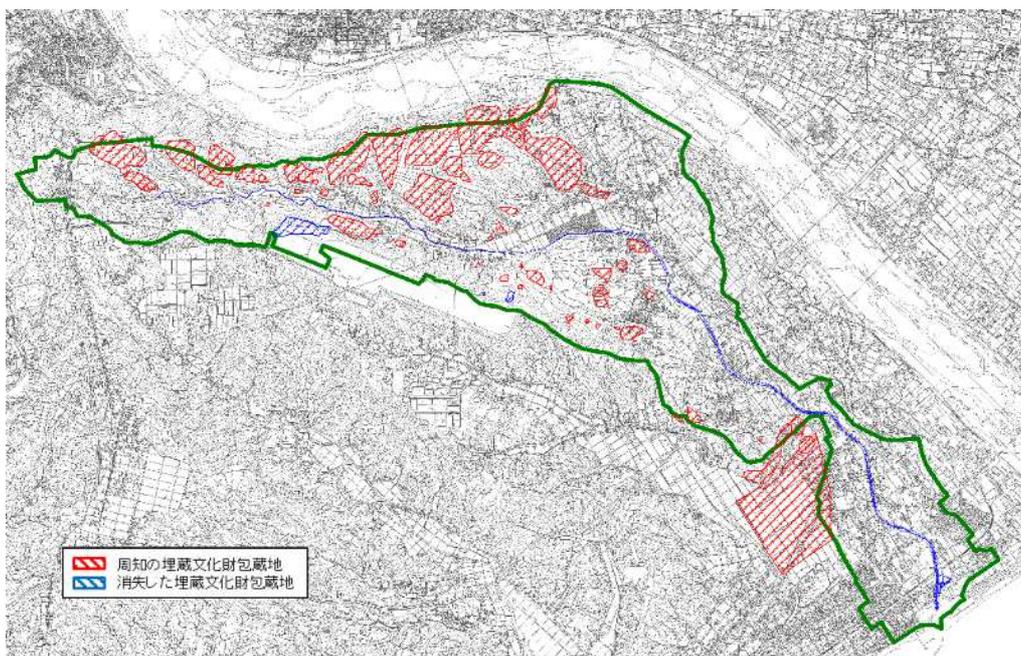


図 1-24 埋蔵文化財指定箇所

③ 河川改修の歴史

湯日川流域では、昭和 12 年、13 年の大洪水を契機として、昭和 15 年度より、河口から島田市鶴ヶ谷地先までの築堤、掘削等が行われた。また、昭和 57 年 9 月洪水では浸水家屋 900 戸の被害が生じたことから、上流の島田市吹木地先から島田市下湯日地先までの築堤、掘削が行われた。その後、富士山静岡空港の建設に伴い平成 4 年から平成 17 年にかけて、島田市内の元水橋から吉田町神戸地先までの区間において、築堤や河道拡幅などが行われた。

(7) 治水事業の沿革

① 過去の水害の実績

流域内で過去に最も被害が大きかった洪水は、昭和 57 年 9 月 6 日にグアム島の西南西の海上に発生し、御前崎の西方に上陸した台風第 18 号による洪水であり、菊川牧之原観測所(気象庁)で 1 時間雨量 91mm、総雨量 628mm を記録し、900 戸の浸水被害が発生した。また、近年では、静岡県をはじめとした東日本に甚大な被害をもたらした令和元年 10 月の台風第 19 号による洪水において 30 戸の浸水被害が発生したほか、河川施設における被害として、平成 16 年 10 月洪水(台風第 22 号)と令和元年 10 月洪水(台風第 19 号)において下流部の中川原橋付近で堤防護岸の洗掘被害が発生した。

平成以降に発生した家屋被害を伴う洪水は 6 洪水で、被害最大の洪水は令和 4 年 9 月台風第 15 号洪水(床上 37 戸、床下 53 戸、合計 90 戸)となっており、令和 4 年台風第 15 号洪水を含め、全て内水氾濫による浸水被害である。

地震による津波被害については、嘉永 7 年に発生した南海トラフ沿いの沖合域を震源とする安政東海地震(マグニチュード 8.4)において、東海地方から紀伊半島南東部にかけての太平洋沿

岸部で甚大な被害が発生し、吉田町の海岸でも5～6mの津波に襲われたとの記録が災害史に残っている。

表 1.3 過去の水害実績

発生日月	気象名	浸水家屋 (戸)	浸水家屋 (戸)		1時間雨量		2時間雨量		備考
			床上	床下	雨量(mm)	確率評価	雨量(mm)	確率評価	
昭和13年8月2日～3日	豪雨	不明	—	—	34	1/2以下	53	1/2以下	御前崎雨量
昭和52年5月11日～21日	豪雨と風浪	15	0	15	37	1/2以下	—	—	水害統計
昭和57年9月10日～13日	豪雨と台風第18号	70	12	58	91	1/10～20	162	1/100程度	被害調査(島田市)
		900	不明						AB表記載
平成14年7月10日～11日	梅雨前線豪雨及び台風第6号	1	0	1	31	1/2以下	52	1/2以下	水害統計
平成16年10月8日～9日	台風第22号及び豪雨	25	0	25	49	1/3程度	79	1/3～5	被害調査(吉田町)
平成16年11月11日～12日	豪雨	3	0	3	87	1/80以上	116	1/20程度	被害調査(吉田町)
平成25年4月6日～7日	豪雨	43	1	42	63	1/10程度	105	1/10～20	被害調査(吉田町)
令和元年10月11日～12日	台風第19号	30	10	20	48	1/3程度	87	1/5程度	被害調査(島田市・吉田町)
令和4年9月23日～24日	台風第15号	90	37	53	84	1/50程度	128	1/80程度	関係市町提供資料(島田市・吉田町)

注)雨量はS13.8洪水は御前崎(県)、S52.5洪水は榛原(県)、S57.9洪水は菊川牧之原(気)、その他の洪水は静谷(県)、被災家屋は被害調査を基本として整理。確率評価は静谷(県)の各種の確率雨量(N=42年間:S51～H29)より推定。

② 湯日川治水事業

湯日川では、昭和15年に着手した中小河川改修事業において、岩留橋地点における計画高水流量を168m³/sと定め、河口から島田市鶴ヶ谷地先までの約9.1kmの区間で築堤、掘削等の河川改修を行った。

昭和57年度に着手した災害復旧助成事業では、寺下橋地点における計画高水流量を130m³/sと定め、島田市吹木地先から島田市下湯日地先までの約5.3kmの区間で築堤、掘削等を実施した。

その後、富士山静岡空港建設に伴う流出増加への対策として空港周辺に調整池が設置されるとともに、島田市内の元水橋から吉田町神戸地先までの約4.1kmの区間において築堤や河道拡幅などを実施した。

表 1.4 湯日川治水事業の沿革

河川名	事業名	年度	内容
湯日川	中小河川改修事業	S15～27	築堤、掘削等
	災害復旧助成事業	S57～S60	築堤、掘削等
	地方特定河川整備事業	H4～17	開発調整池整備、築堤、河道拡幅等

③ 津波対策事業

東海地震により発生が予測される津波対策として、平成2年度から耐震対策河川事業により湯日川水門の整備に着手し、平成12年3月に完成した。その後、静岡県第4次地震被害想定(平成

25年)に基づく対策として、水門の耐震補強工事が平成28年に完了している。

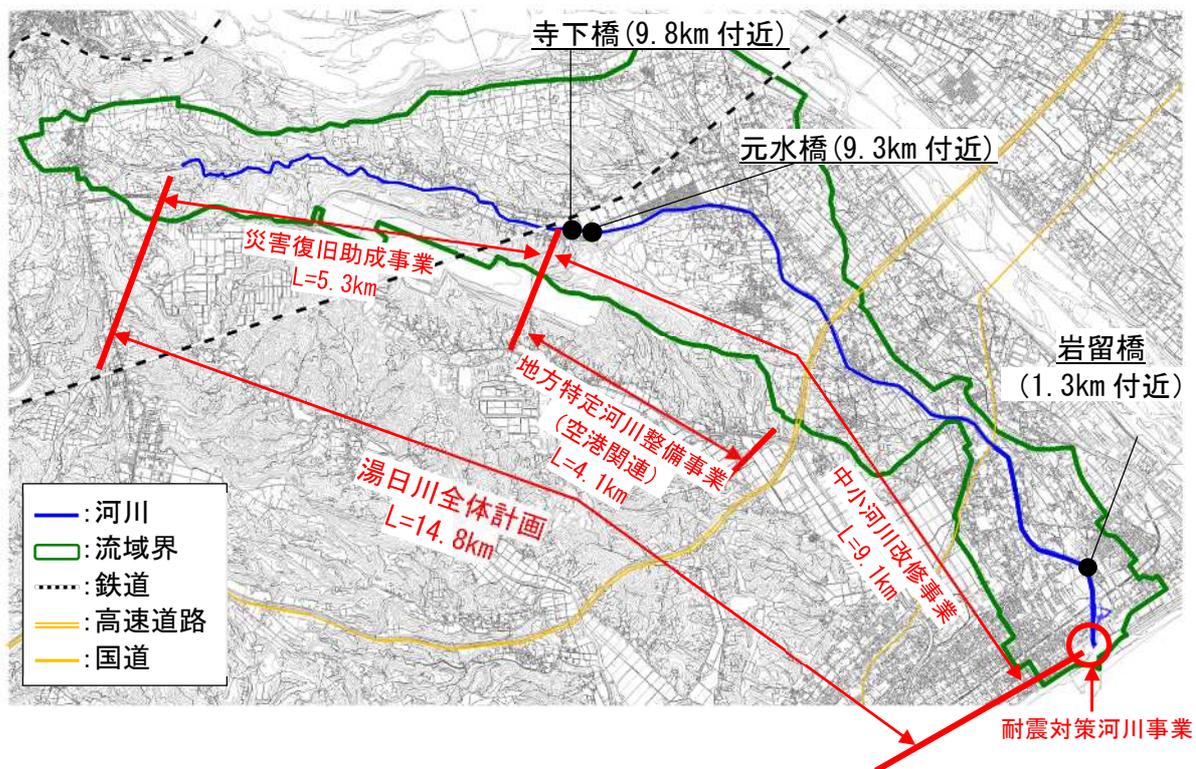


図 1-25 湯日川改修状況図



図 1-26 湯日川水門

2 河川の概要

湯日川は河川の特徴により、4つの区間に分類できる。

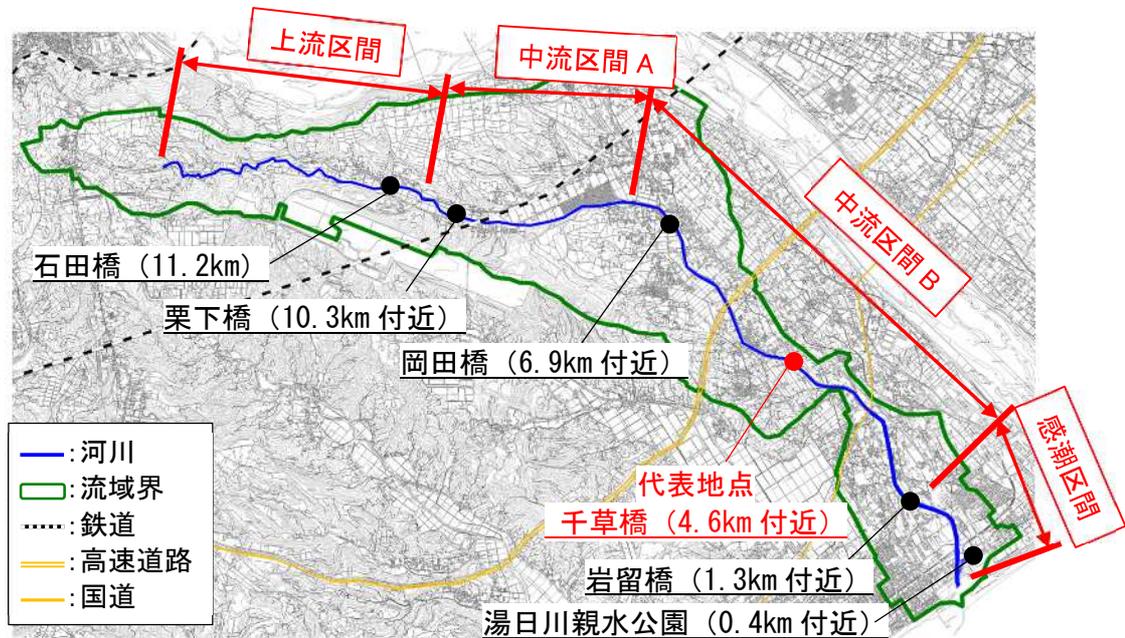


図 1-27 河川区間図

(1) 上流部(起点～寺沢合流点)

丘陵地に挟まれた谷底を流れ、沿川には畑地が多く広がる。主に掘込河道であり、縦断勾配は1/50～1/100程度と急勾配で落差工が連続している。河川内の多くはツルヨシに覆われている。



図 1-28 上流区間

(2) 中流部

① 中流区間(A区間, 寺沢合流点～長池川合流点)

沿川は畑地が多く広がるほか、市街地(宅地や工場等)が点在している。概ね掘込河道で縦断勾配は1/300～1/1,000程度であり、河床は平坦である。また、沿川の小学校や公園など公共施設周辺には親水階段が整備されている。



図 1-29 中流区間 (A区間)

② 中流区間(B区間, 長池川合流点～岩留橋)

大井川の扇状地である低平地が広がっており、沿川には水田や住宅地が点在する。一部掘込河道が見られるものの、主に築堤河道であり、縦断勾配は1/300～1/1,000程度である。流域住民による美化活動が行われているほか、河川内に多くの動植物の生息・生育・繁殖が確認されている。



図 1-30 中流区間 (B区間)

(3) 下流部・河口部(感潮区間, 岩留橋～河口)

河口部には低平地が広がっており、吉田町の市街地が形成されている。概ね築堤河道であり、縦断勾配は 1/430～1/600 程度である。湯日川親水公園があり、住民の憩いの場になっている。河口から岩留橋(1.3km 付近)までは感潮区間であり、汽水域に生息するウグイなどが確認されている。



図 1-31 下流部・河口部(感潮区間)

第2 流域の現状と課題

1 治水に関する現状と課題

(1) 洪水対策

湯日川では、これまでに中小河川改修事業、災害復旧助成事業、空港関連事業、近年の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」等により河川整備を進めており、現況流下能力は、河口～城山橋付近(7.3km 付近)の区間が年超過確率 1/10 以上、元水橋付近(9.3km 付近 km)より上流が年超過確率 1/50 以上の治水安全度を有している。一方、準用河川の長池川合流付近(7.8km 付近)～元水橋付近の約 1.5km 区間は年超過確率 1/5 程度と上下流に比べて治水安全度が低くなっている。また、8km 付近の築堤区間には局所的に流下能力が不足する箇所があり、同区間の背後に人口や資産が集中していることから、堤防の決壊などを伴う水害が発生すると社会的影響は大きい。

近年、全国的に気候変動の影響に伴う集中豪雨が多発しており、湯日川においても、河川の流下能力を上回る洪水により短時間で急激な水位上昇が生じる危険性がある。流域では、平成 25 年洪水、令和元年台風第 19 号、令和4年台風第 15 号による洪水などにおいて、近年、周辺に比べて地盤が低い地区や、本川に流入する河川や水路等の整備が遅れている箇所などで内水被害が発生している。中下流域の低平地部は、洪水時に湯日川の水位が高くなることで、支川等からの流水が滞り、排水不良が生じるといった地形的要因を有している。

当面の河川整備は、目標とする流量を安全に流下させるため、河床掘削などによる河川改修を行い、治水安全度を確保するとともに、浸水の発生要因を的確に捉えて、既存の雨水貯留施設の効果的な活用や土地利用の誘導なども含めた総合的な治水対策を検討し、あらゆる関係者が連携して浸水被害軽減対策に取り組むことが重要である。

(2) 津波対策

東日本大震災を教訓として静岡県第4次地震被害想定(「第一次報告」平成 25 年、「駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル 1 地震の津波の想定」平成 27 年)では、発生頻度が比較的高く、発生すれば大きな被害をもたらす「計画津波」^{※1}と、発生頻度は極めて低いが発生すれば甚大な被害をもたらす「最大クラスの津波」^{※2}の 2 つのレベルの津波が設定されている。

湯日川では、「計画津波」において吉田町沿岸部で最大 20ha の浸水が想定されており、必要堤防高が T.P.+6.0m と設定されている。この津波からの被害の防止又は軽減を図るため、河口部に湯日川水門や河川堤防が整備されており、津波対策施設が常に機能を発揮できるよう適切に維持管理する必要がある。

また、最大クラスの津波に対しては、ハード・ソフト対策を総合的に組み合わせた多重防御による津波防災を推進する必要がある。

※1 計画津波:静岡県第4次地震被害想定で対象としている「レベル1の津波」

※2 最大クラスの津波:静岡県第4次地震被害想定で対象としている「レベル2の津波」

2 河川の水利用に関する現状と課題

河川の水利用については、農業用水として許可水利1件、慣行水利 41 件が設定されており、約 370ha の灌漑に利用されている。灌漑期には大井川用水の一部が栃山頭首工を通じて榛原幹線から湯日川流域内の農地に供給され、利用された後の排水や余水が湯日川に流入している。近年は、渇水被害の報告は確認されていない。

また、内水面漁業権は設定されておらず、沿岸では、吉田町しらす鰻採捕組合によるシラスウナギ漁が行われている。

河川の適正な利用を維持するため、流況の把握に努め、地域住民や関係機関と連携して流水の適正かつ合理的な利用に努める必要がある。

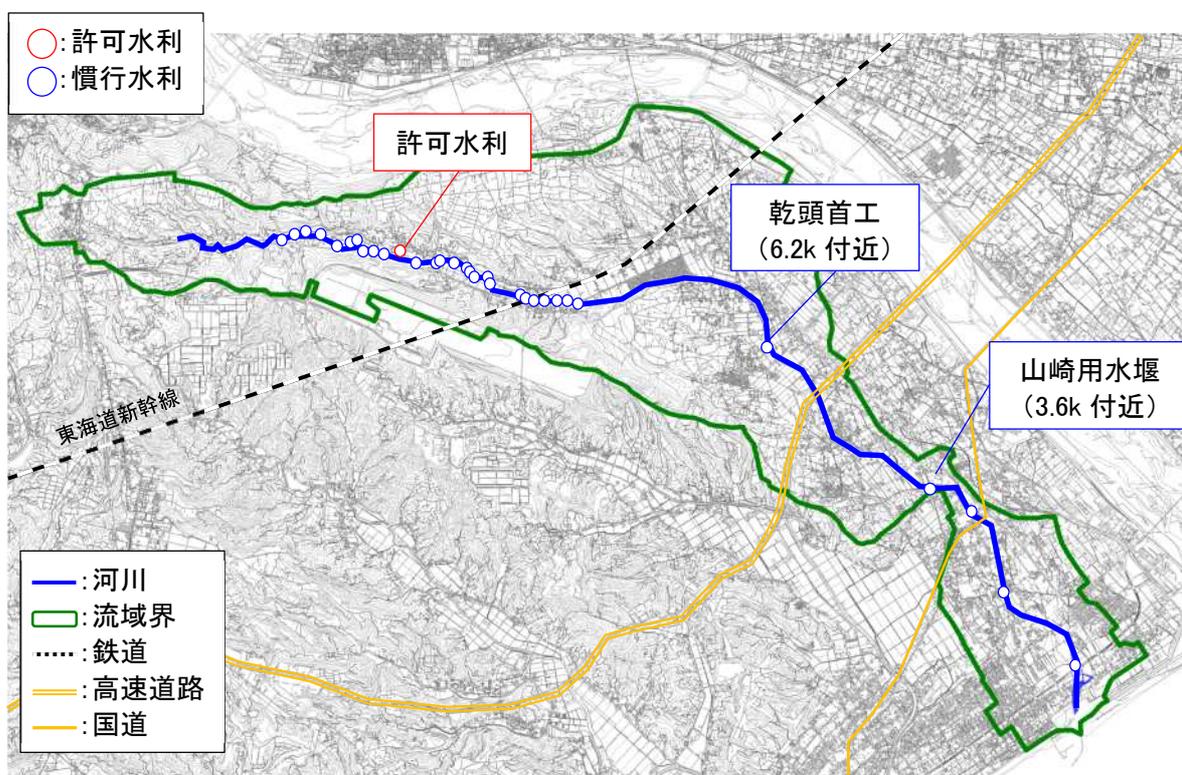


図 2-1 慣行水利位置図

3 河川環境に関する現状と課題

(1) 水質

湯日川水系の水質に関しては、湯日川全区間が環境基準の A 類型(BOD 値:2mg/L 以下)に指定されており、環境基準点の岩留橋(1.3km 付近)における BOD(75%水質値)は、環境基準値を満足している。

湯日川流域のうち、島田市内については、生活排水は浄化槽による個別処理の区域となっている。吉田町内では、下水道(公共下水道)が整備されている。令和 4 年度末時点の汚水処理人口普及率は、島田市で 69.8%、吉田町で 83.4%となっている。

今後ますます流域内の市街化が進む可能性を踏まえ、河川の水質維持、改善に向けて、関係市町と連携して、地域住民などの関係者に河川の水質の維持や改善に向けた啓発などを行っていくことが重要である。

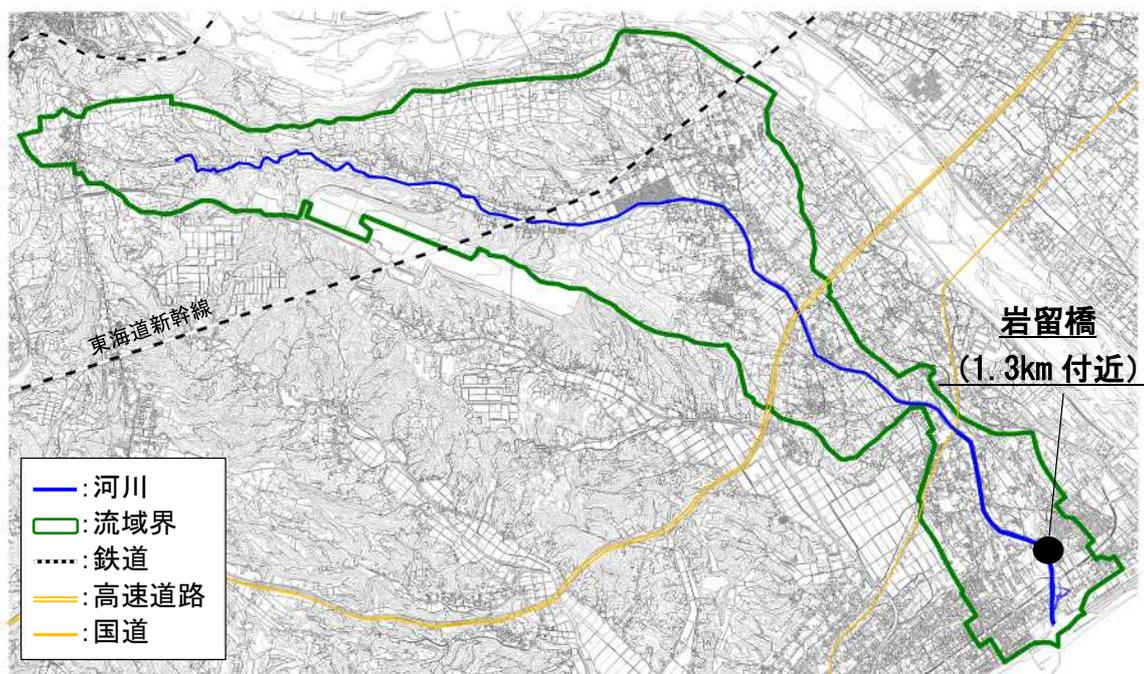


図 2-2 水質観測地点

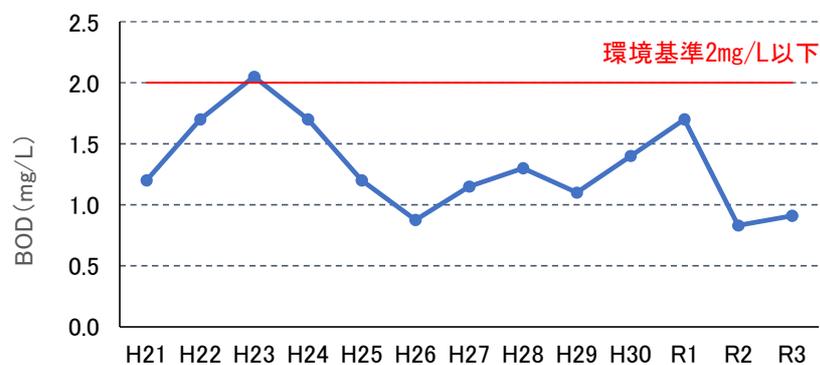
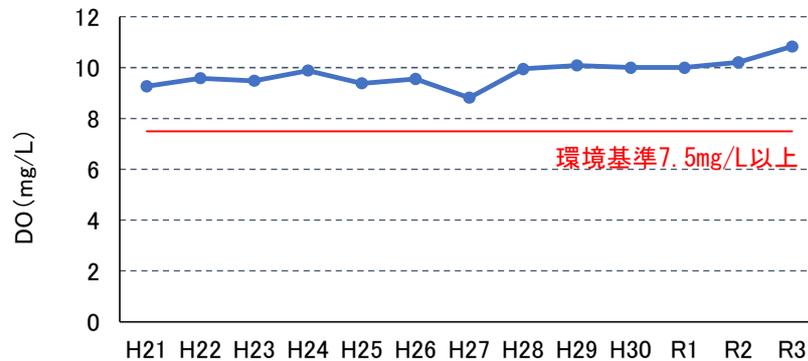


図 2-3 公共用水域水質調査結果(BOD:75%値)(岩留橋)



出典：静岡県ホームページ(公共用水域測定結果表)

図 2-4 公共用水域水質調査結果(DO(溶存酸素))(岩留橋)

(2) 動植物の生息・生育状況

魚類は8目 16 科 42 種が確認されている。中下流域では汽水魚を含め多様な魚類相が見られるが、上流部では単純な魚類相となっており、東海道新幹線交差部から元水橋の間にある落差工より、その上流と下流では魚類相が大きく異なる。落差工より下流では、感潮区間でシロウオ(絶滅危惧ⅠA類(CR))が確認されたほか、汽水魚やアユ等の回遊魚が多く見られる。

また、中流の堰の湛水区間ではギンブナ、瀬を産卵場とするオイカワやアユ等が見られ、ツルヨシなどの抽水植物があるところでは、ミナミメダカ(絶滅危惧Ⅱ類(VU))がそれぞれ確認されている。落差工より上流部では、カワムツ、タカハヤ、ヨシノボリ類などが確認されている。

なお、2018年に国際学術誌 Zootaxa に掲載された国内産ナマズ属の新種タニガワナマズは、静岡県もその分布域とされており、同時に掲載されたタニガワナマズの標本リストには湯日川産と思われる標本も含まれるなど、流域内では注目すべき種の生息も期待されている。

哺乳類は7目 12 科 23 種が河川及びその周辺で確認されている。

鳥類は 13 目 33 科 110 種が河川及びその周辺で確認されている。重要種としては、ハチクマ(絶滅危惧Ⅱ類(VU))、サシバ(絶滅危惧Ⅱ類(VU))、ハヤブサ(絶滅危惧Ⅱ類(VU))、ヤマセミ(絶滅危惧ⅠB類(EN))、イカルチドリ、コシアカツバメ(絶滅危惧Ⅱ類(VU))などがあげられる。ほかに、両生類は2目4科12種、爬虫類は2目7科13種が河川及びその周辺で確認されているほか、ゲンジボタルも確認されている。

湯日川流域では、多様な生物の生息・生育の場が形成されており、これらの環境を保全していく必要がある。

表 2.1 重要種 一覧

和名/学名	科名	上位分類群	静岡県カテゴリ		環境省カテゴリ
			全県	中部地域	
ヒメビシ <i>rapa incisa Siebold et Zucc.</i>	ミソハギ	浮葉植物	絶滅危惧IB類(EN)	—	絶滅危惧II類(VU)
スプタ <i>Blyxa echinosperma</i>	トチカガミ	沈水植物	絶滅危惧II類(VU)	—	絶滅危惧II類(VU)
イトトリゲモ <i>Najas gracillima</i>	トチカガミ	顕花植物	絶滅危惧II類(VU)	—	準絶滅危惧(NT)
ムササビ <i>Petaurista leucogenys</i>	リス	モモンガ	準絶滅危惧(NT)	—	—
カヤネズミ <i>Micromys minutus</i>	ネズミ	ネズミ	準絶滅危惧(NT)	—	—
ウナギ類(ニホンウナギ) <i>Anguilla japonica</i>	ウナギ	ウナギ	絶滅危惧IB類(EN)	絶滅危惧IB類(EN)	絶滅危惧IB類(EN)
カワムツ <i>Candidia temminckii</i>	コイ	コイ	要注目種(N-II:分布上注目種等)	—	—
タカハヤ <i>Candidia temminckii</i>	コイ	コイ	要注目種(N-II:分布上注目種等)	要注目種(N-II:分布上注目種等)	—
タモロコ <i>Candidia temminckii</i>	コイ	コイ	要注目種(N-II:分布上注目種等)	要注目種(N-II:分布上注目種等)	—
ドジョウ <i>Candidia temminckii</i>	ドジョウ	コイ	情報不足(DD)	情報不足(DD)	準絶滅危惧(NT)
ミナミメダカ <i>Oryzias latipes</i>	メダカ	ダツ	絶滅危惧II類(VU)	絶滅危惧IA類(CR)	絶滅危惧II類(VU)
アカメ <i>Lates japonicus</i>	アカメ	スズキ	要注目種(N-III:部会注目種)	要注目種(N-III:部会注目種)	絶滅危惧IB類(EN)
カワアナゴ <i>Eleotris oxycephala</i>	カワアナゴ	ハゼ亜	要注目種(N-III:部会注目種)	要注目種(N-III:部会注目種)	—
カワヨシノボリ <i>Rhinogobius flumineus</i>	ハゼ	ハゼ亜	要注目種(N-II:分布上注目種等)	要注目種(N-II:分布上注目種等)	—
シロウオ <i>Leucopsarion petersii</i>	ハゼ	スズキ	絶滅危惧IA類(CR)	絶滅危惧IA類(CR)	絶滅危惧II類(VU)
オカメハゼ <i>Eleotris melanosoma</i>	カワアナゴ	スズキ	要注目種(N-III:部会注目種)	要注目種(N-III:部会注目種)	—
ハチクマ <i>Pernis ptilorhynchus</i>	タカ	タカ	絶滅危惧II類(VU)	—	準絶滅危惧(NT)
サンバ <i>Pernis ptilorhynchus</i>	タカ	タカ	絶滅危惧II類(VU)	—	絶滅危惧II類(VU)
ハヤブサ <i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	ハヤブサ	絶滅危惧II類(VU)	—	絶滅危惧II類(VU)
アオアシシギ <i>Tringa totanus</i>	シギ	チドリ	絶滅危惧II類(VU)	—	—
ヤマセミ <i>Megaceryle lugubris</i>	カワセミ	ブッポウソウ	絶滅危惧IB類(EN)	—	—
イカルチドリ <i>Megaceryle lugubris</i>	チドリ	チドリ	準絶滅危惧(NT)	—	—
コシアカツバメ <i>Hirundo daurica</i>	ツバメ	スズメ	絶滅危惧II類(VU)	—	—
ニホンアカガエル <i>Rana japonica</i>	アカガエル	カエル	絶滅危惧II類(VU)	—	—
トノサマガエル <i>Rana japonica</i>	アカガエル	カエル	準絶滅危惧(NT)	—	準絶滅危惧(NT)
カジカガエル <i>Buergeria buergeri</i>	アカガエル	カエル	準絶滅危惧(NT)	—	—

〈重要種指定の出典〉

植物:まもりたい静岡県の野生生物 2020、環境省レッドリスト 2020

哺乳類、魚類、鳥類、両生類:まもりたい静岡県の野生生物 2019、環境省レッドリスト 2020

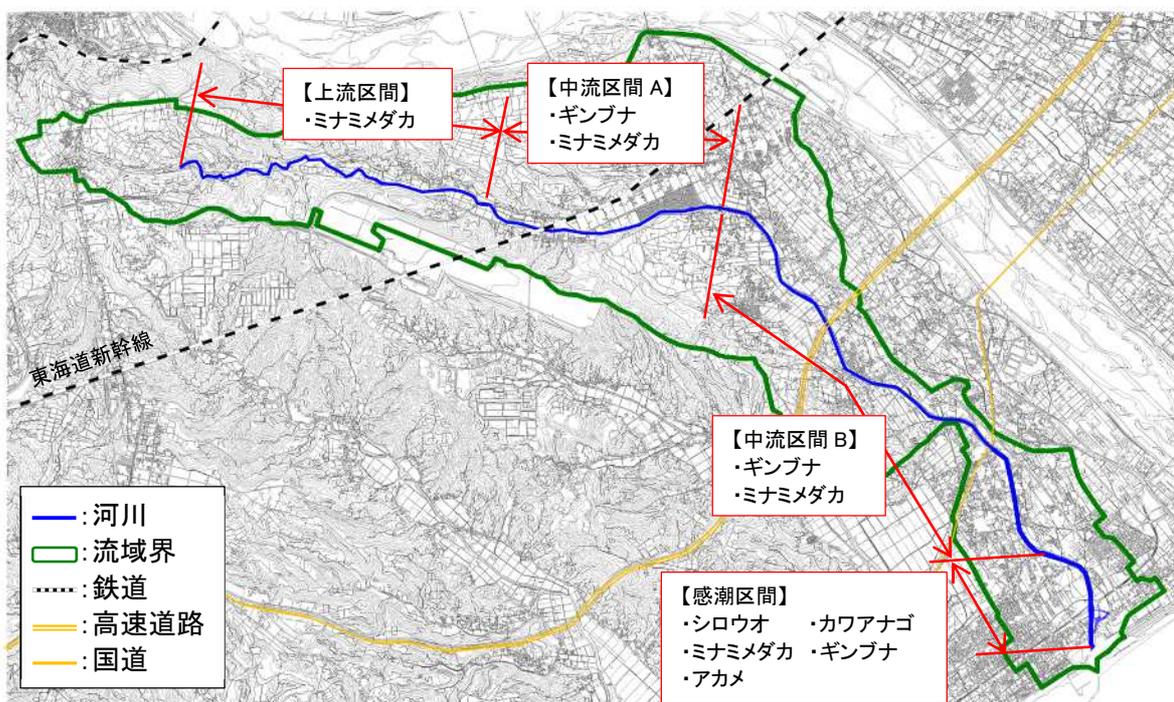


図 2-5 湯日川流域の魚類（調査地点）

■ 魚類



シロウオ



ギンブナ



ミナミメダカ



アカメ



カワアナゴ

写真出典: フィールド総合図鑑 川の整備物(リバーフロント整備センター)
富士山静岡空港自然誌(静岡県)

■ 両生類



ニホンアカガエル



トノサマガエル



カジカガエル

写真出典: 富士山静岡空港自然誌(静岡県)

■ 植物



ヒメビシ



スブタ



イトリゲモ

写真出典：日本の水草(角野康郎著)

■ 鳥類



ハチクマ



サシバ



ハヤブサ



ヤマセミ



イカルチドリ



コシアカツバメ



アオアシシギ

写真出典：富士山静岡空港自然誌(静岡県),日本の野鳥 590(平凡社)

図 2-6 湯日川で生息・生育が確認されている主な重要種

4 河川と地域の関わりに関する現状と課題

湯日川には親水公園(河口部の0.4km付近の湯日川親水公園や上流部8.6km付近の湯日谷川公園など)が整備され、地域住民が身近に河川と触れあう空間となっている。一方、住民アンケートでは水辺に近づくことができる親水護岸や日常的に利用できる遊歩道やジョギングコースの整備を求める声もある。

また、静岡県では県管理河川において、河川空間の除草・清掃等の美化活動を行う地域の河川愛護団体を関係市町とともに支援する「リバーフレンドシップ制度」を設けており、湯日川においては2団体が同制度に基づく同意書を締結し、愛護活動を実施している。

今後、湯日川に対する関心や親しみを持った川と人との良好な関係を継続させ、引き続き、地域住民とともに良好な河川空間を活かした川づくりを進めていく必要がある。

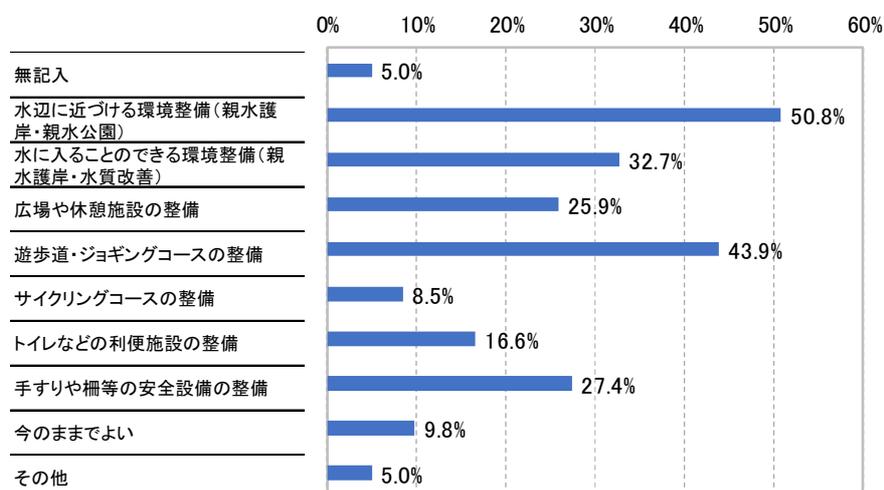


図 2-7 住民アンケート結果

表 2.2 「リバーフレンドシップ制度」一覧

河川名	箇所名		区間		団体名	同意書締結年月日	活動内容
	市町名	地先名	場所	延長(m)			
(二)湯日川	島田市	湯日	長池川合流点～月坂橋(兩岸)	500m	クリーン月坂の会(月坂2丁目町内会)	H24.10.16	堤防の清掃・除草
(二)湯日川	島田市	月坂1丁目	月坂橋～観橋上流120m 左岸	540m	月坂一丁目町内会	H30.2.28	堤防の清掃・除草

第3 河川整備計画の目標に関する事項

1 河川整備の基本理念と基本方針

湯日川流域は、昭和 44 年に東名高速道路の吉田インターチェンジが開設し、平成 21 年6月に富士山静岡空港が開港した。富士山静岡空港の開港に合わせて県道静岡空港線が建設され、県道住吉金谷線、県道島田吉田線を経由して吉田インターチェンジと接続、平成 26 年には県道島田吉田線が沿岸部の主要な幹線道路である国道 150 号まで延伸された。また、湯日川流域の上流付近には、^{かなやおまぎ}金谷御前崎連絡道路が建設され、富士山静岡空港と重要港湾である御前崎港が結ばれ、将来、新東名高速道路島田金谷インターチェンジとも連結する計画となっており、湯日川流域は、陸・海・空の交通ネットワークの要衝となる地域の一部として、地域の利便性が向上し、流域の発展が期待される。

湯日川流域では、昭和 12 年、13 年の大洪水や昭和 57 年9月洪水により大きな被害が発生したが、災害を契機とした築堤や河道掘削の河川整備が進められたほか、空港関連事業に伴う改修により、近年では外水氾濫による大きな浸水被害は発生していない。また、海岸近くに市街地が形成されており、地震による津波に対する安全の確保にも課題を有している。

今後、気候変動に伴う豪雨の激化による河川の氾濫や土砂災害の発生が懸念されており、また低平地に人口と資産が集中する下流から中流部では南海トラフ地震に伴う津波による甚大な被害も想定されることから、災害に強く安全で安心な地域づくりが求められている。

一方、湯日川は、河口部や中流部には豊かな自然環境を感じることができる親水公園があり、中流部は散策、上流部では小学校の環境学習の場として活用されるなど地域住民にとっての身近な空間として日常的に利用されている。今後も、流域の貴重な自然環境や歴史・文化を守りながら、吉田町、島田市と地域住民等と連携し河川を軸とした魅力ある地域づくりを推進していくことが求められる。

これらを踏まえ、湯日川水系の河川整備における基本理念を次のとおり定める。

<基本理念>

陸・海・空の交通ネットワークの要衝として利便性が向上し、賑わいの創出や地域の活性化が期待されている。このことを踏まえ、洪水、津波や土石流などの災害による被害の防止または軽減を図るとともに、地域住民にとって身近なうらおいのある水辺空間の創出に取り組むことにより、安全・安心で地域に親しまれる憩いの場となる川づくりを目指す。

2 計画対象区間

本整備計画の対象区間は、湯日川水系の河川のうち、下記に示す河川の県管理区間とする。

表 3.1 計画対象区間

水系名	河川名	起点	終点	延長(m)
湯日川	湯日川	島田市湯日字吹木 4274 地先の 第 17 号落差工上流端	海に至る	15,860

3 計画対象期間

本河川整備計画の対象期間は、概ね 20 年間とする。

なお、本計画は、現時点における流域の社会経済状況、自然環境、河道状況等を前提として策定するものであり、策定後のこれらの変化や新たな知見、技術の進歩等により必要がある場合には、対象期間内であっても計画の見直しを行う。

4 洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

災害の発生または軽減に関して、流域内の人口や資産などの重要度、過去の水害の発生状況やその後の河川整備の状況、及び現状の整備状況を踏まえ、時間雨量 64mm の降雨(年超過確率 1/10 程度)による洪水を河道内で安全に流下させることを目指す。

また、近年、流域内で多く発生している内水被害に対しては、浸水被害が発生した支川流域からの洪水を流すことができるよう湯日川の改修と併せ、関係市町と連携し、浸水被害の軽減対策に取り組む。

また、堤防や護岸等の河川管理施設において、常に所定の機能が保たれるよう適正な維持管理に努める。

計画規模を上回る洪水や整備途上段階での施設能力を超える洪水・高潮等の発生に対しては、平常時より水防活動や危険箇所の周知、要配慮者対策への支援、リアルタイムの雨量・水位等の情報提供などのソフト対策を推進するとともに、市街地の増加や主要交通などの資産が集積する土地利用状況などを踏まえ、関係自治体と連携し、洪水・高潮等の被害リスクの高い河川であることを流域住民に周知することで地域防災力の向上に努める。

津波対策に関しては、発生頻度が高く、発生すれば大きな被害をもたらす「計画津波」に対しては、人命や財産を守るため、河口水門の適切な維持管理により、海岸・港湾等における防衛と一体となって津波被害を防御するものとする。

発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす「最大クラスの津波」に対しては、施設対応を超過する事象として、住民等の生命を守ることを最優先とし、地域特性を踏まえ、吉田町との連携により、土地利用、避難施設、防災施設などを組み合わせた津波防災地域づくり等と一体となって減災を目指す。

5 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、引き続き、河川流況の把握に努め、農業用水などの既存の水利用、動植物の生息・生育・繁殖環境、景観などに配慮しつつ、流域住民や関係機関と連携を図りながら、適正な水利用が行われ、河川の持つ多面的機能が十分に発揮できる環境の維持を目指す。

6 河川環境の整備と保全に関する目標

河川環境の整備と保全に関しては、地域住民との連携によって自然環境、地域特性、景観、水辺空間等の様々な視点から治水・利水面との調和を図り実施する必要がある。また、湯日川水系では、多様な生物が生息・生育しており、特に河口部の感潮域では、湯日川親水公園周辺の水際部などに特徴的な自然環境が見られるほか、砂礫床ではシロウオが確認されているなど、汽水域特有の生態系や景観等が形成されている。

そのため河川整備にあたっては、このような多様な動植物が生息・生育・繁殖している湯日川の自然環境を踏まえ、現況の土砂移動形態等に対して最大限に配慮し、河川環境の保全に努める。また、動植物の生息・生育・繁殖環境の連続性を確保するため、瀬・淵などの流水の変化、砂礫や・砂泥などの河床材料の保持、適正な植生管理などに配慮し、河川が有する自然の営力を活用して河川本来の多様な動植物が生息・生育・繁殖している水辺環境の保全に努める。

在来種への影響が懸念される特定外来生物については、学識者や関係機関と連携し、外来生物被害予防3原則(入れない・捨てない・拡げない)の普及に努める。

また、水質については、シロウオをはじめ、多様な動植物が生息・生育・繁殖し、人々が水とふれあえる豊かで清らかな水環境を保全・創出するため、引き続き吉田町、島田市や関係機関及び地域住民と連携し、汚濁負荷量の更なる削減を働きかける。

7 河川と地域との関わりに関する目標

河川と地域との関わりについては、湯日川が地域の身近な川として多くの流域住民に認識されている現状を踏まえ、河川愛護の精神が更に広がり、愛され続ける川となるよう、引き続き流域住民との良好な関係の構築に努める。

また、通勤や通学、散歩など日常的な利用状況を踏まえた施設整備を望む声が多いことから、日常生活における河川と地域住民との接点が増え防災意識や河川愛護の精神が育まれ受け継がれていくよう、市町や流域住民と連携し、より良い河川空間の整備を目指す。

河川の整備を通じて、河川と地域の良好な関係が個性ある地域づくりに発展していくよう、島田市、吉田町のまちづくり施策や取組と密接に連携して、安全・安心で地域に親しまれる憩いの場となる川づくりを目指す。

第4 河川整備の実施に関する事項

1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要

(1) 河川工事の目的

治水対策に関しては、洪水時の河川水位を低下させ、整備目標の洪水を安全に流下させることを目的に、河床掘削等により必要な河川断面の確保を図る。

なお、工事の実施にあたっては、シロウオの遡上、産卵、孵化期に配慮し、沈砂池や汚濁防止膜による水の濁りの低減に努めるとともに、必要に応じ、学識者の助言を得て、動植物の生息・生育・繁殖環境や景観に配慮した「多自然川づくり」を推進するとともに、誰もが利用しやすい水辺空間の維持の創出に努める。

(2) 河川工事の施行場所

湯日川水系の河川整備計画の主要な整備箇所は、以下に示すとおりとする。

表 4.1 河川整備計画の主要な整備箇所

区分	河川名	区間又は地点	延長	主な整備内容
河川改修	湯日川	7k30 ~ 8k70	1.4km	河床掘削

(3) 主要工事の概要

ア 河川改修

(ア) 実施箇所

河川改修の実施場所は以下に示すとおりとする。

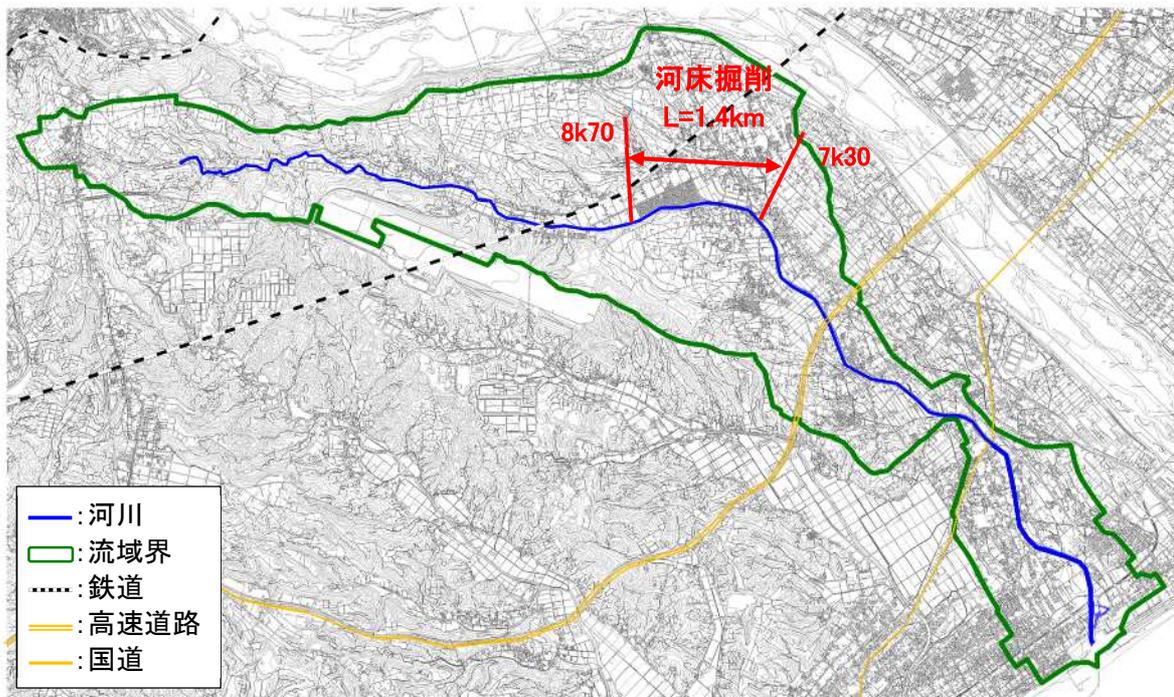


図 4-1 整備対象区間

(イ) 流量配分図

計画高水流量は年超過確率 1/10 規模の降雨による洪水を対象として、基準地点の千草橋地点において $210\text{m}^3/\text{s}$ とする。

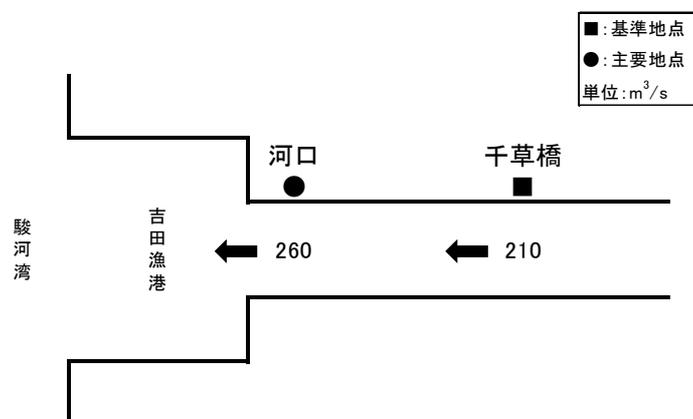


図 4-2 河川整備計画流量配分図

(ウ) 工事の内容

目標とする流量を安全に流下させるため、河道内の掘削や堤防高が不足する箇所での河川改修を行う。河川改修にあたっては、濁水対策を講じるなど、絶滅危惧種であるシロウオなどの生物に配慮する。

現況河床を可能な限り残し、掘削箇所は現況河床をスライドさせる形状として礫や巨石等を存置し、瀬、淵等、良好な自然環境、生物の生息・生育環境を保全する。

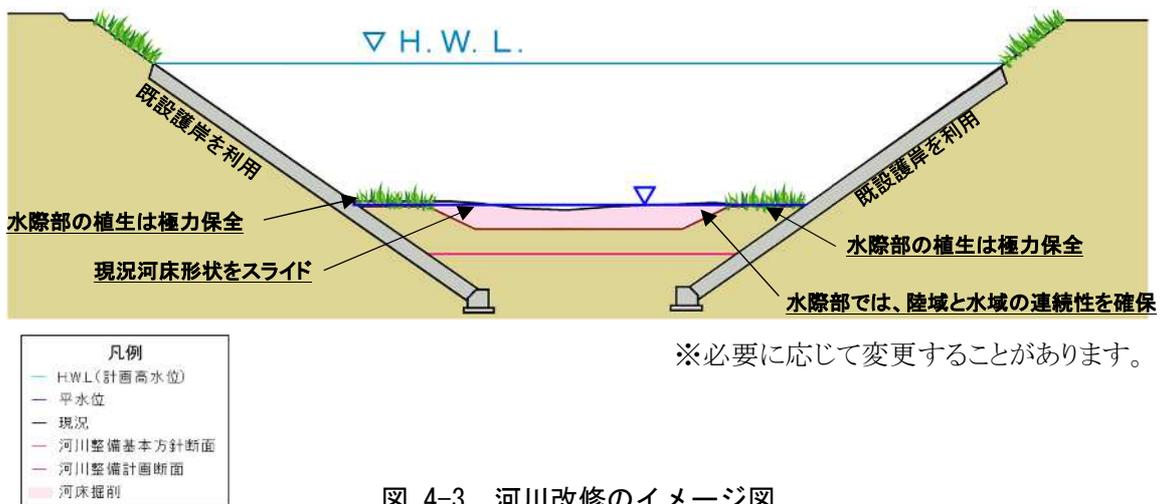


図 4-3 河川改修のイメージ図

イ その他の河川工事の概要

その他、河川における過去の浸水被害の発生状況や上下流とのバランス、地域住民との連携などを総合的に考慮し、必要に応じて堤防や護岸、階段工等、局所的な対策を講じる。

特に 0k80～7k70 までの区間では、堤防高不足の可能性のある箇所が点在しており、詳細状況を把握した上で局所的な対策を講じる。

2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

(1) 河川の維持の目的

河川の維持管理に関しては、洪水、津波による災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、治水安全度の確保のほか、河川の持つ多面的な機能が十分に発揮できるよう、島田市や吉田町をはじめとする関係機関や流域住民、学識者等と連携を図りながら、適切な維持管理に努める。

(2) 河川の維持の種類

ア 堤防及び護岸等の維持管理

堤防や護岸等の河川管理施設を適切に維持するため、定期的または出水後及び地震発生後の調査により、護岸の崩れ、亀裂等による治水機能低下や河床の深掘れ状況等について現地を確認し、異常が認められた場合には、迅速かつ適切に対応し、復旧に努める。

イ 河道内堆積土砂及び植生等の維持管理

良好な河川環境の保持、創出のため、瀬や淵、河床構成材料や浮き石などの河床の多様性と連続性に配慮し、動植物の生息・生育・繁殖環境の場として、また、豊かな自然環境を有する水辺空間としての河川機能の継承を図るよう努める。

河道内の土砂堆積については、平常時より河川巡視や状態監視の定点観測を行って適確に把握する。洪水時の土砂流出により河道内に著しく堆積した治水上支障となる土砂の緊急的な排除については、迅速かつ適切に対応する。治水上の支障となる河道内に堆積した土砂の排除や繁茂した植物の除去にあたっては、施工方法や時期の検討に加えて、学識者との連携により、河川形状の改変に伴う動植物の生息・生育環境への影響について配慮する。河川区域内の高木等の植樹は、管理者を明確にして、洪水の阻害や堤防の弱体化につながらないように注視し、必要に応じて伐採等を適切に行う。

河川における除草等については、治水や管理上支障となる場合に必要に応じ実施するとともに、地域住民により実施されている清掃や除草活動など河川愛護活動、河川美化活動について、リバーフレンドシップ制度による支援を推進するなど、良好な河川環境を保つように努める。

ウ 水門等河川工作物の維持管理

操作を伴う河川管理施設については、常に施設の機能が十分に発揮されるよう、平常時より施設の長寿命化を踏まえた定期的な点検等を確実にを行い、施設の特性に合わせた維持管理を継続的に実施する。河川管理施設の経年劣化による機能低下に対しては、異常を早期に把握し、修繕や機器更新等を適切に行う。

また、河川占用許可工作物についても、特にゲートを備えた樋門、樋管などの出水時に操作を伴う施設は、管理者に対して平常時の定期的な点検の確実な実施を求め、出水時には操作ルー

ルに基づいた適切な運用が図られるよう指導し、河川管理上の支障が認められる場合は、各施設の許可基準に基づいた適正な維持管理を求める。

エ 水量・水質の監視等

水量については、河川流況の把握に努める。適正な水利用と正常な機能の維持のため、関係機関や流域住民と連携し、流域全体の保水機能の維持や健全な水循環機能の保持などを目的として、治水、利水、環境の調和した適正な河川利用を図る。

水質については、環境基準値を満足しており、この状況が維持又は向上されるよう、市町による公共下水道や合併浄化槽の普及や汚濁の防止に関する啓発活動などについて関係機関と連携して取り組む。

オ 河川環境の整備と保全

河川の自然環境は、上流部、中流部、感潮域を含む下流部のそれぞれの地形や河川特性に依存している。湯日川では貴重な種も確認されており、こうした動植物の生息・生育する自然環境を湯日川らしい地域の財産のひとつとして、関係する流域住民や行政が共通の認識を持って、河川に多くの人が目を向け関心を寄せていくよう流域内連携を図りながら、湯日川の河川環境の保全に努めていく。

今後、落差工などの横断構造物の改築や更新等にあたっては、魚類等の河川上下流への移動に配慮した魚道等を設置するよう検討する。また、河川占用工作物の管理者が行う堰等の施設の改築や維持工事においても適切な環境対策が図られるよう、実施者に積極的な情報提供や必要な連携を行う。

在来種への影響が懸念される特定外来生物については、関係機関や学識者と連携し、外来生物被害予防3原則(入れない・捨てない・拡げない)の普及に努める。

3 その他の河川整備を総合的に行うために必要な事項

湯日川流域において、整備計画目標を上回る洪水や整備途上段階での施設能力を上回る洪水が発生した場合や、想定を上回る津波や高潮が発生した場合においても、できるだけ被害の軽減を図られるよう、関係機関や流域住民との連携を強化し、地域の防災力の向上を図る取組を推進する。

また、河川への流出量増加による災害の発生や土砂・流木の流出による河道閉塞や施設損傷を防ぐため、関係機関との連携強化に努める。

(1) 総合的な被害軽減対策

静岡県がウェブサイトやモバイルサイトで公表している土木防災情報システム「SIPOS RADAR (サイポスレーダー)」(平成 27 年6月更新)の周知を図り、流域の雨量・河川の水位情報や地震情報・津波予報等の発信を通じて、地域の実質的な防災活動に活用されるよう島田市や吉田町に働きかける。また、雨量計・水位計の新設や情報の充実、システムの高度化に努めていく。

インターネット (<http://sipos.pref.shizuoka.jp>)



千草橋水位観測所



モバイルサイト (スマホ対応)

図 4-4 インターネットによる防災情報提供画面 (サイポスレーダー)

水防活動や洪水ハザードマップの活用、それに伴う危険個所の周知、流域住民へのきめ細かい防災情報の伝達、洪水や津波等の災害発生を想定した避難訓練、災害時要援護者対策、適正な土地利用への誘導等の対策など、被害軽減対策の推進を島田市及び吉田町に働きかけていく。

また、流域内に存在する既存の防災調整池の機能が適正に発揮されるよう施設管理者に対して適切な維持管理を促す。

「最大クラスの津波」に対しては、施設による被害の最小化を図るため、県及び市町の関係部局、機関と連携して検討を進めるとともに、ソフト対策を組み合わせた多重防御による津波防災を進める。

(2) 流域との連携

ア 大規模氾濫減災協議会等による関係機関との連携

国と静岡県、島田市、吉田町などの関係機関で構成する「志太榛原地域大規模氾濫減災協議会」などにより、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するとの共通認識のもと、豪雨災害の減災に向けて、関係機関が連携・協力し、タイムライン等の活用による地域住民の迅速な避難と被害の最小化に向けた防災意識の向上や、逃げ遅れによる人的被害をなくすこと、氾濫発生後の社会機能の早期回復を目標として、ハード対策とソフト対策を一体的かつ計画的に進める取組を推進していく。

イ あらゆる関係者が流域全体で行う持続可能な「流域治水」への転換

近年の水災害の激甚化・頻発化に対し、河川改修などのハード対策をより一層加速化するとともに、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、集水域から氾濫域にわたる流域全体に関わるあらゆる関係者が協働し、流域全体で行う「流域治水」への転換が求められている。

湯日川流域においては、榛南地域流域治水協議会により、島田市、吉田町などと流域治水を計画的に推進するための取り組みを進めており、「氾濫をできるだけ防ぐための対策」、「被害対象を減少させるための対策」、「被害の軽減・早期復旧・復興のための対策」として具体的な施策を検討し、洪水に備える総合的かつ多層的な取組を推進する。

(3) 流域における取組への支援等

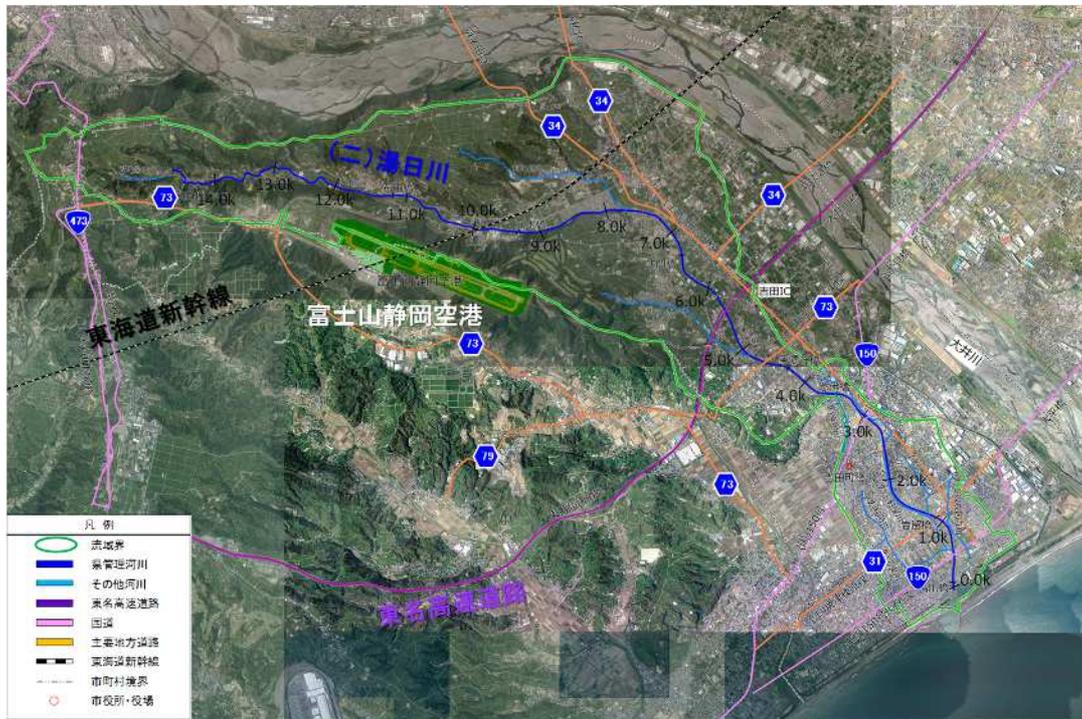
ア 島田市、吉田町、流域住民との連携、地域活動への支援

河川に関する様々な情報を幅広く提供して流域住民の河川に対する意識向上を図るとともに、リバーフレンド活動を通じて、河川環境の保全や治水対策についての理解や関心を流域住民が高め、河川行政全体への理解を促す。地域防災力の向上も視野に、河川の上中下流の住民で関係者が連携する取組や流域住民の主体的な川づくり活動を支援していく。

さらに、川の日イベントや出前講座などの積極的な開催について、関係機関との協力や支援を行う。

<<付図>>

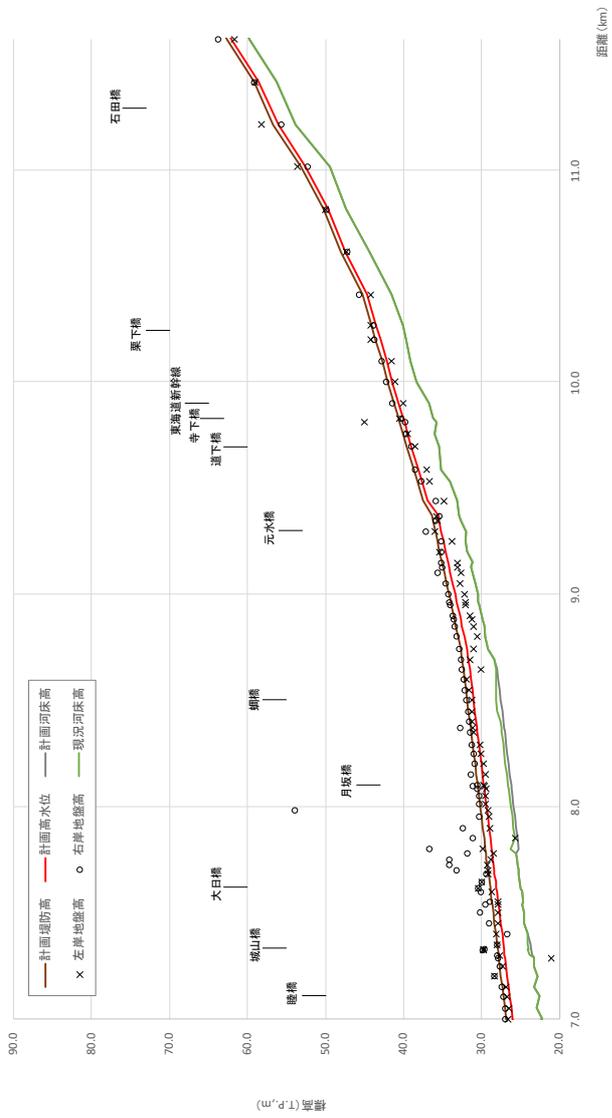
湯日川水系 流域概要図



流域面積 $A=25.8\text{km}^2$

流路延長 $L=15.9\text{km}$





距離標	計画高水位	計画勾配
7.00k	26.03	
7.10k	26.38	
7.20k	26.70	
7.30k	27.03	
7.40k	27.36	
7.50k	27.70	
7.60k	28.03	
7.70k	28.36	
7.80k	28.69	
7.90k	29.02	
8.01k	29.40	
8.10k	29.69	
8.20k	30.02	
8.29k	30.33	
8.40k	30.69	
8.50k	31.02	
8.60k	31.36	
8.74k	31.87	
8.80k	32.21	
8.90k	32.80	
9.00k	33.39	
9.10k	33.98	
9.20k	34.57	
9.29k	35.13	
9.44k	36.89	
9.53k	37.63	
9.58k	38.06	
9.69k	38.95	
9.81k	39.86	
9.90k	40.58	
10.00k	41.38	
10.09k	42.16	
10.20k	42.98	
10.26k	43.51	
10.41k	44.68	
10.61k	47.48	
10.81k	49.67	
11.01k	52.57	
11.21k	56.07	
11.41k	58.57	
11.61k	62.07	

